

を出すナアヤガラよりも橋舟貳艘を出し又長き麻繩を持行て右沈倫せし船に結び付ナアヤガラに引寄せ此船を起し水を出す其船を起す仕懸有て甚た手輕し當港の山の麓に文王武王の廟有至て廣大にして美といふ又日本の漂流人米國の商船に乗して當港に有今日上陸の輩右漂流人に面會し其國を尋るに藝州二の島産にして名を龜五郎と云去ル酉の年廿四歳の時十月の末に大坂より榮力丸と云船に乗り紀州熊野沖にて難風に逢漂流し日本より凡六百里程沖合にて亞の商船にたすけられサンプランシスコに行き其所に壹ヶ年計住せし由此榮力丸ハ十七人乗にて船頭を益藏と云老人なり同所におゐて病死す貳人ハ本國に歸る彦藏治作と云餘ハ諸方の散亂して行方しらざるよし右の龜五郎年來本國に歸ん事を思ひ有といへ共不幸にして其便りを不得よつて無是非軍艦の水夫となり其後ち又以前すくわれしものに奉公せし所に幸ひ此度横濱港にいたる由因て大ひに悦ひ其船に乘し小間使となりて當港まで來り

し由榮力丸ハ大坂灘の松屋と云もの、樽船にて千五百石積ミなり西北風にて漂流し帆柱を切て碇を下し流に隨ひ行船中にハ水乏しくて降雨を以て呑水とし海上にたよふ事五十餘日に及此間に小島二ツを見ると云又當港にて積ミ入るゝ石炭ハ一トンの價ひ十二ドルなりといふ

同十六日 晴午

一今日ハ日曜日付例の説法有婦數十人來て聽聞す御軍艦咸臨丸の病人サンフランシスコ病院に残り養生せしもの全快に付米船に乘しサンフランシスコ港ヲ出帆せしといふ

同十七日 朝雨半晴未

一漂流人龜五郎義日本に歸國いたし度由よつてナアヤガラ船に引取風俗ハ異人に異ならず殊に米利堅の人別にも入故に江戸詰のミンスターより其御國に御引渡し申へきといふ當港の人口三萬七千零五十八内西洋人亞人五百二十八人ニ

同十八日 晴申

一 巳の刻過當港碇を巻きて出船し午の刻に及内海の門を出る事凡壹里計にして楫を丑寅の間へ取て走此時水先案内人史那船に乗して歸る大海に史那の魚漁船を數多見る終日船の左に山を見て走す

同十九日 晴東北風西

一 船東方に走四方へ渺々たる海上目に遮るものハ更になし終日兩度雨ふる

同廿日 晴東風戌

一 辰の刻遙か左に山を見る是臺灣なり船ハ東南の間へ走巳の下刻にいたり臺灣を隔る事五里計に及此時貳里餘を隔て一ツの小島を見る近邊に魚漁舟多く有又竹を組合筏のよふになし右に乗して網を引も有臺灣右の小島にも高山有て草木青々と繁茂せり午の刻過船貳艘に逢壹艘ハ英船にてナアヤガラと旗を合其間壹里計を隔てこの臺灣ハ史那の屬島にして南北亞の二百四十五里東西百餘里人口凡二百五十萬程といふ扱

て申の刻過臺灣の岬を過船を東方に走此所より亞の二十里を隔て東の方にタバコといふ島有夜亥の刻頃是を左に見て走せタバコ島の常燈を見る其より又東に三里計を隔て小島有其名不詳子の下刻にいたり右の小島を過

同廿一日 晴東風亥

一 今朝にいたり小島更に不見船ハ東北の間へ走

同廿二日 晴東風子

一 船ハ寅卯の間へ走琉球散島の中大平山島の沖を過

同廿三日 晴東風丑

一 船東北の間へ走未明より遙かに小島を見る辰の刻過是を左にして貳里計を隔て過其名不詳續て大琉球有海上貳三里計を隔ておなしく左に見て走夕刻にいたり是を過大琉球島ハ遠見凡我四十里計に見ゆ

同廿四日 陰北風寅

一朝左のかたは貳里餘を隔て薩州の徳島を見る午後より動搖強し

同廿五日 陰北風卯

一船東北の間は走今日四國の沖を過動搖つよし夜に入少し静か

同廿六日 晴北風辰

一船寅卯の間は走紀州の沖を過午後壹わの鳥を見る夕刻左り遙かに伊勢の國淺間山を見る

同廿七日 晴東風巳

一今曉船西の方へ走此邊に暗礁有故之後ち又船東北の間は走卯の刻過右に島を見る是八丈島と云辰の刻過より伊豆の散島船のすゝむに隨ひ海上遙かに顯れ見ゆ又左に伊豆の國を見る此日富士ハ雲の中に有て不見御軍艦壹艘を見る未の刻魚漁船壹艘を見る申の下刻にいたり伊豆國と大島の間はすゝむ下田港にあまたの大船滯泊す又小舟數艘を見る酉の中刻にいたり遙かに城ヶしまの常燈を見る此城ヶ島の常燈ハ山上にて

燒火をなす之亥の刻におよひ地利不案内にして港海門の内は入かたき由ニ松輪岬にいたりて陸より二三丁計を隔て碇を下し此處暫時にして又碇を解き船を走て三崎にいたり碇をおろし滯溜す其後小舟を下して近海測量をなす今日港に入食料等を調ひんと衆人たのしみ有しか夜に入港ハ入事ならずして碇をおろしけれハ何れも大ひにちからをうしなふ

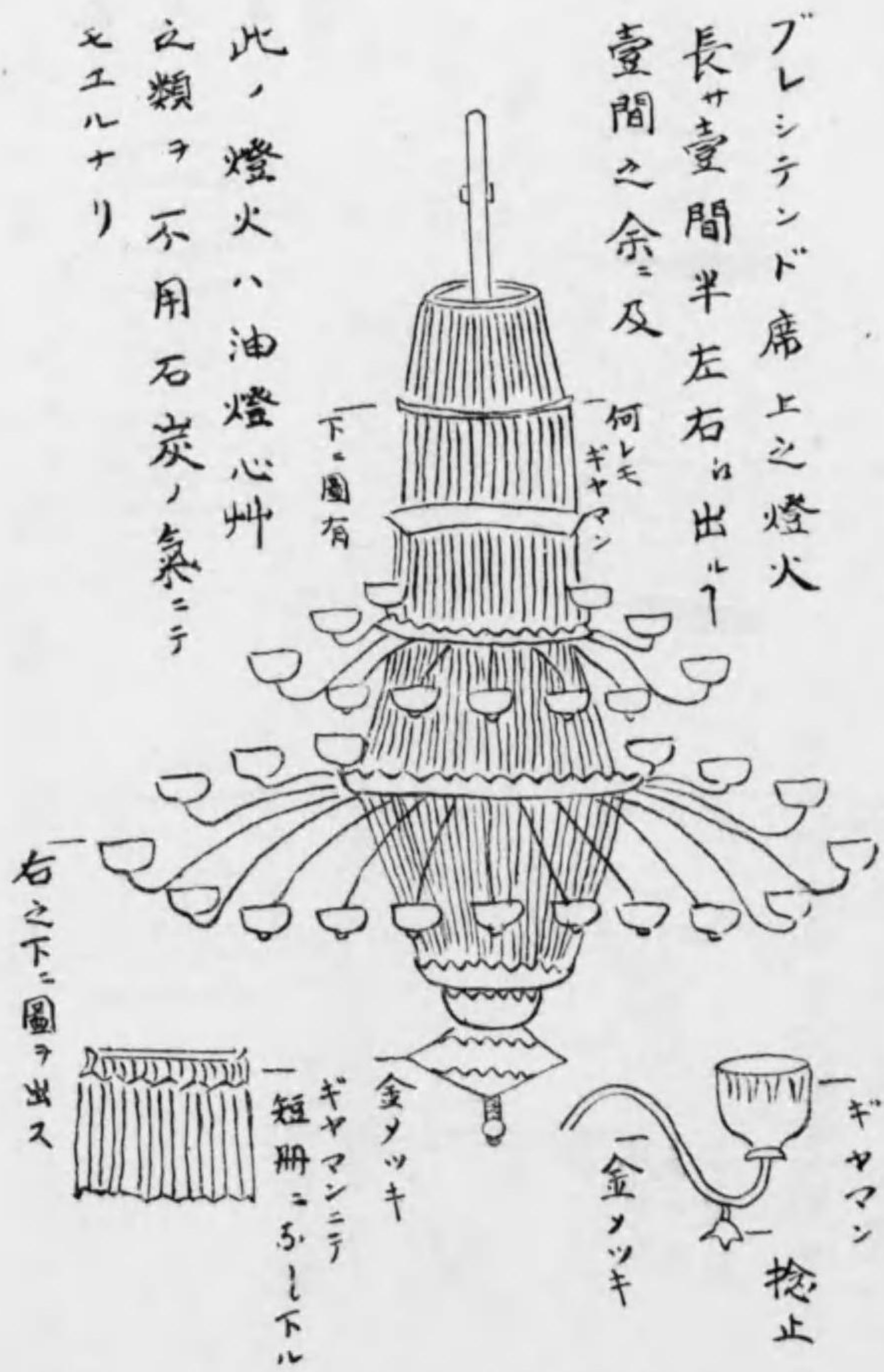
同廿八日 晴午

一今朝にいたり我白帆の朝日にかゝやき山水の風景異國に異て甚た美なり辰の刻碇を解きて南方へ走又東北へ走浦賀港を過又大船小船あまたに帆を上ヶ走山水の美景なるを見て異人皆稱譽して世界第一の美景なりと云午の刻横濱港にいたり陸より貳里餘を隔て船を止此處よりしらせとして五六輩上陸す其後船を東方へ未の下刻品川沖三里餘の所は碇を下す此處にフロイス船貳艘滯泊す今日ハ只むなく此所に日を暮

せり然れとも我が日本におゐて萬里外の異境にはしめて航海し又大洋の波濤をしのぎ命をたもちて再び歸國し品川沖に碇を下せし事各のよろこひ愚なる筆紙に述べたし

同廿九日 晴未

一今日ハ未明より各着替等をなし迎船の來るをまつ我の日記にハ廿九日なれとも是ハ東の航海せし故に一日を増したり西の航する時ハ一日を減するなりよつて我國におゐてハ今日ハ廿八日なり扱て數艘の迎船來りけれハ辰の刻過右の迎船の乗移御三公御乗移りの節祝炮を發す其より操練所に着船上陸し午飯を食し其所を發足申の刻過飯田町屋敷に着す



家々之入口、上ニ毎夜
燈火ス。ガス
ランプト云
其數
五六十ニ
至ルモ
アリ

紙ニテ艸花ヲ作り
飾ル

何レモギヤマン

夜ニ入一室ノ燈
物金ノツキ
檢止

往來ノ左右ニ有高燈籠
一ギヤマン

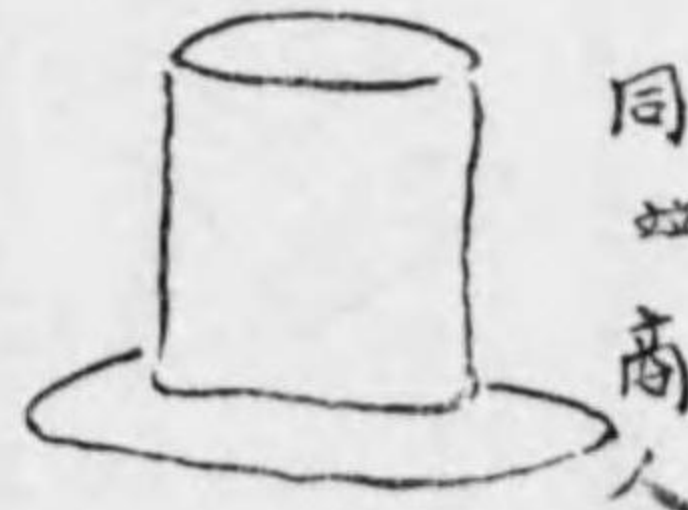
米人之冠



商人

婦人

此所ハ切草花ヲ作り
飾リをふし至ク美麗ニ



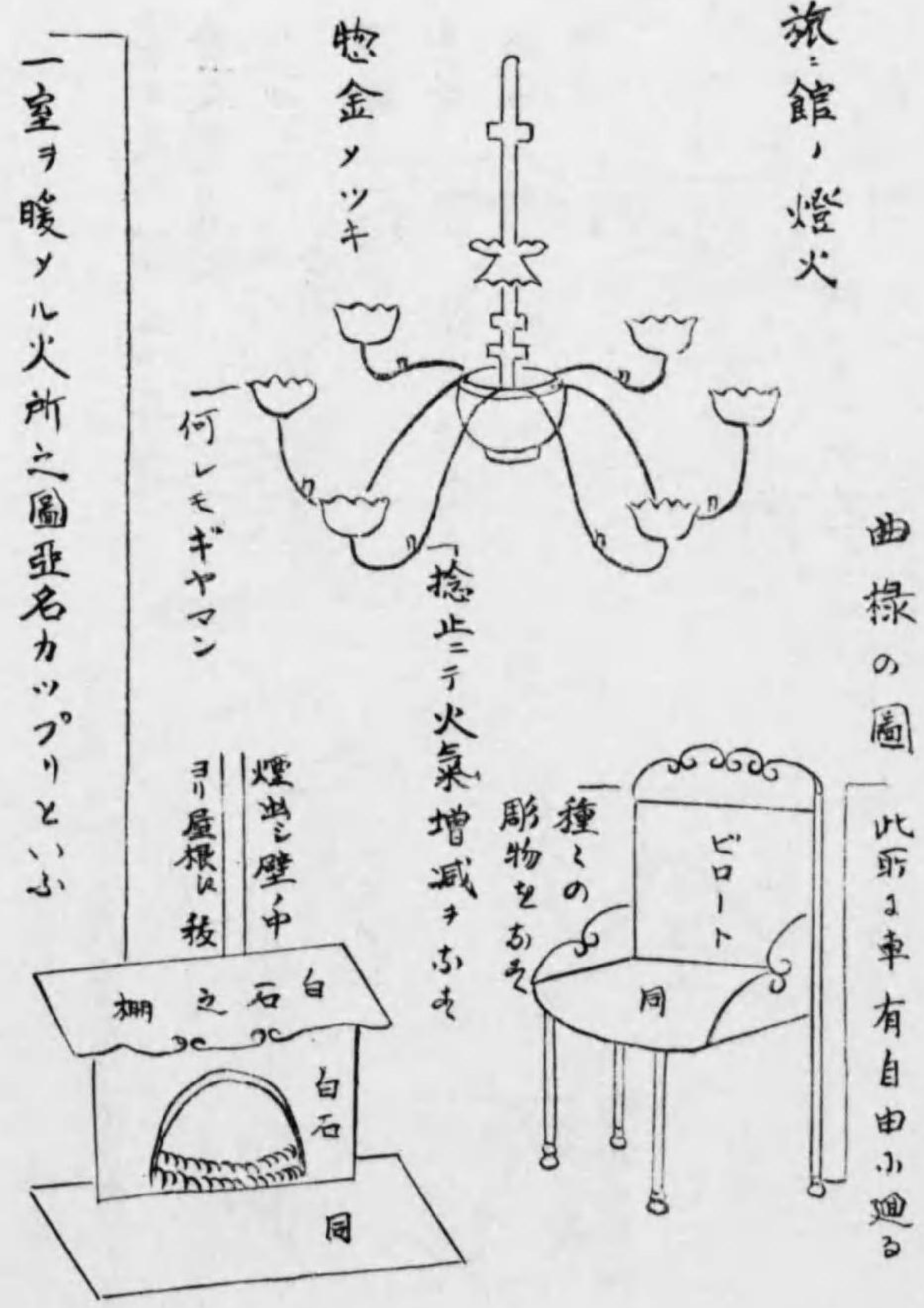
商人

同草花
鳥ノ羽
等ト飾



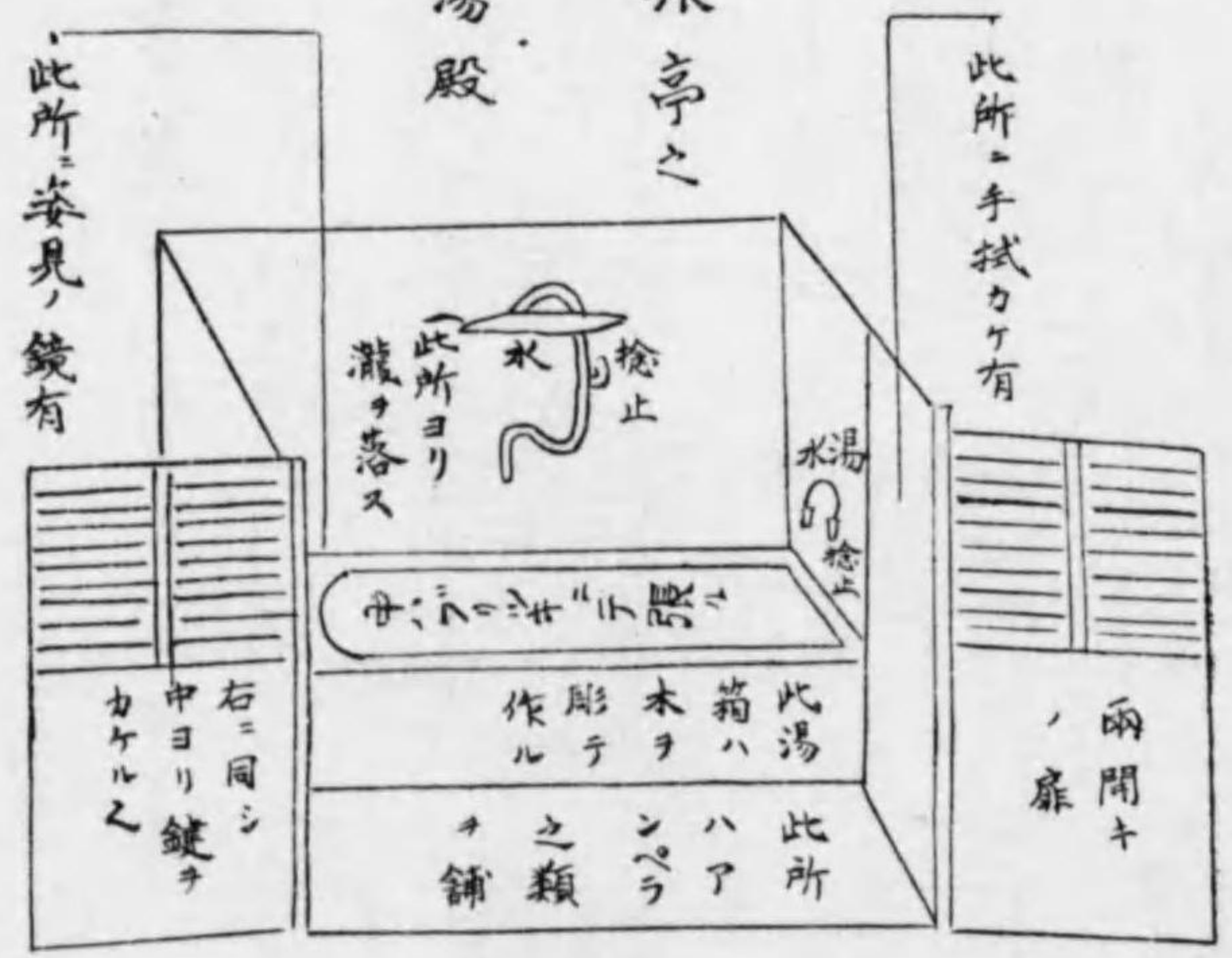
十四五才の娘

旅館ノ燈火



旅亭之

湯殿

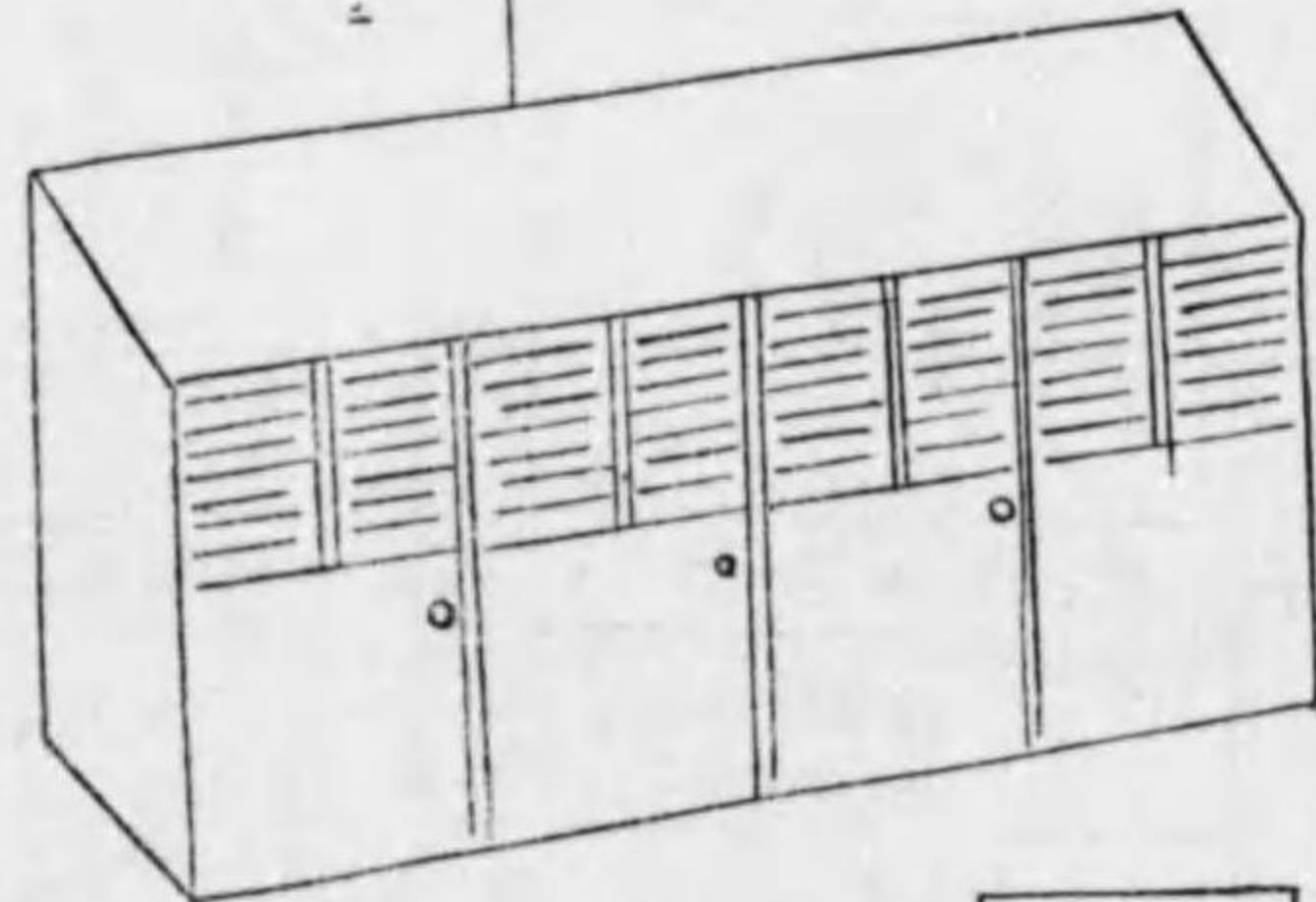


湯殿前
ニ有ル手洗
水之圖

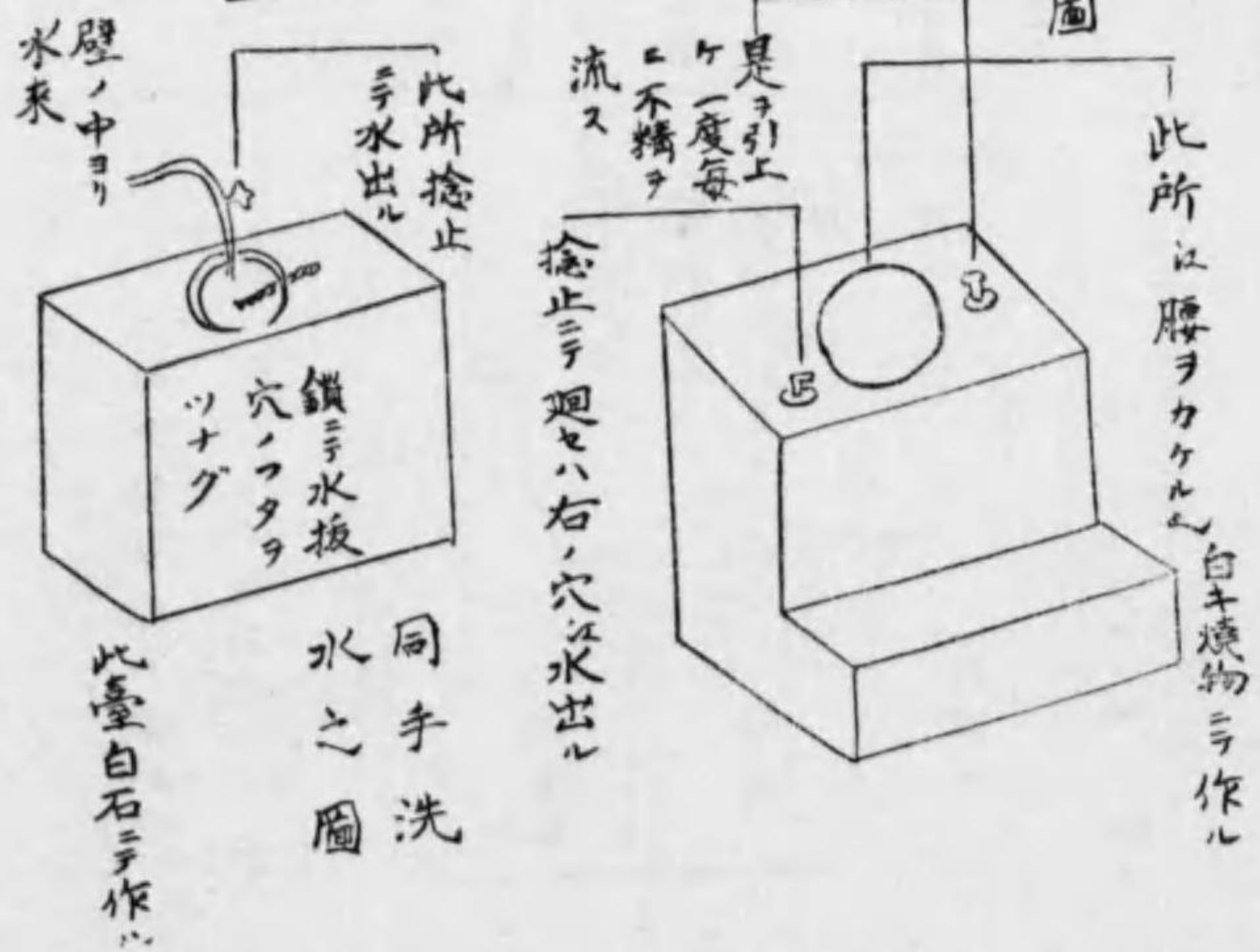


雲隠

外ノ廻り板ニ
テ白クマル

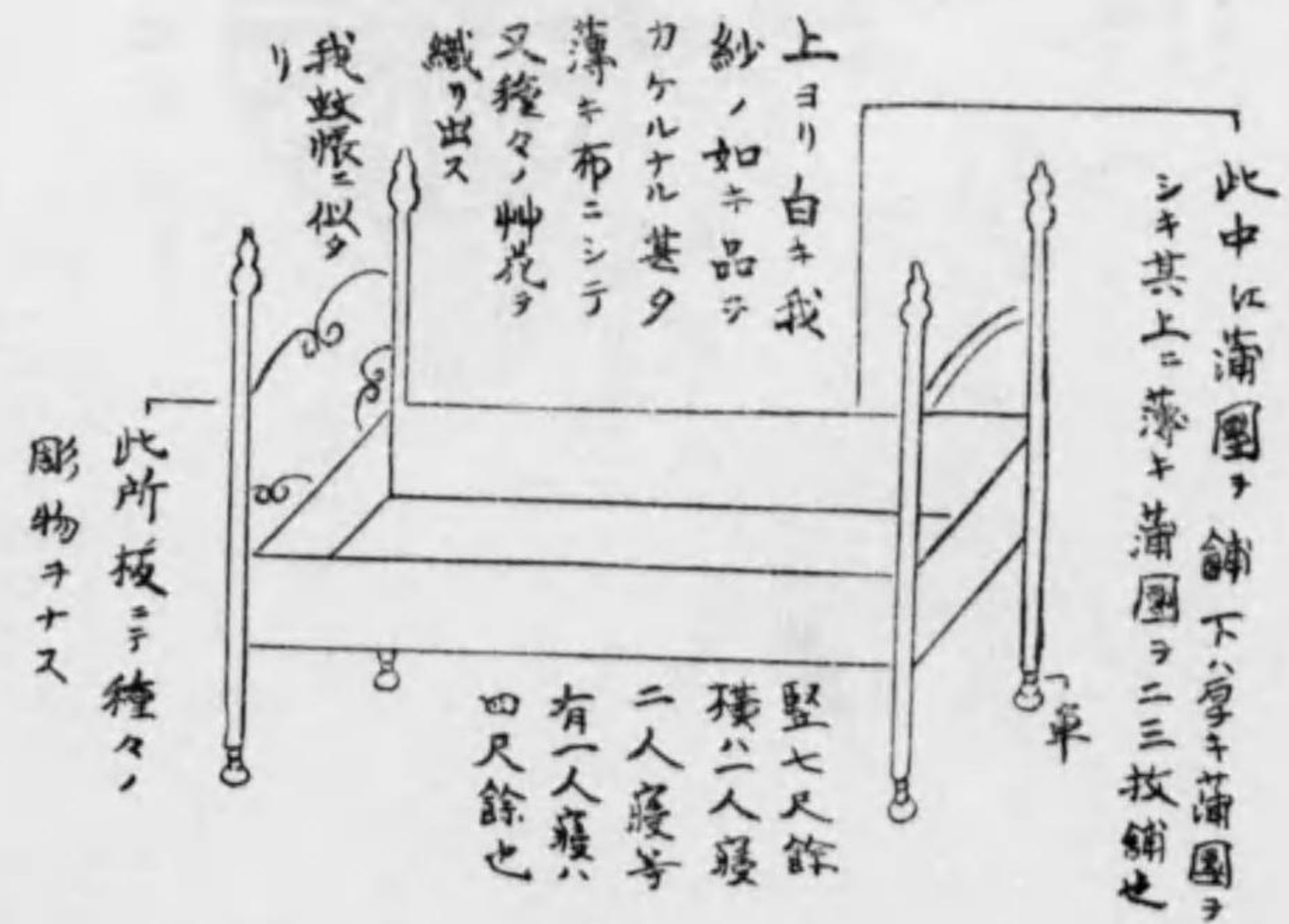


開キ戸同中ノ圖



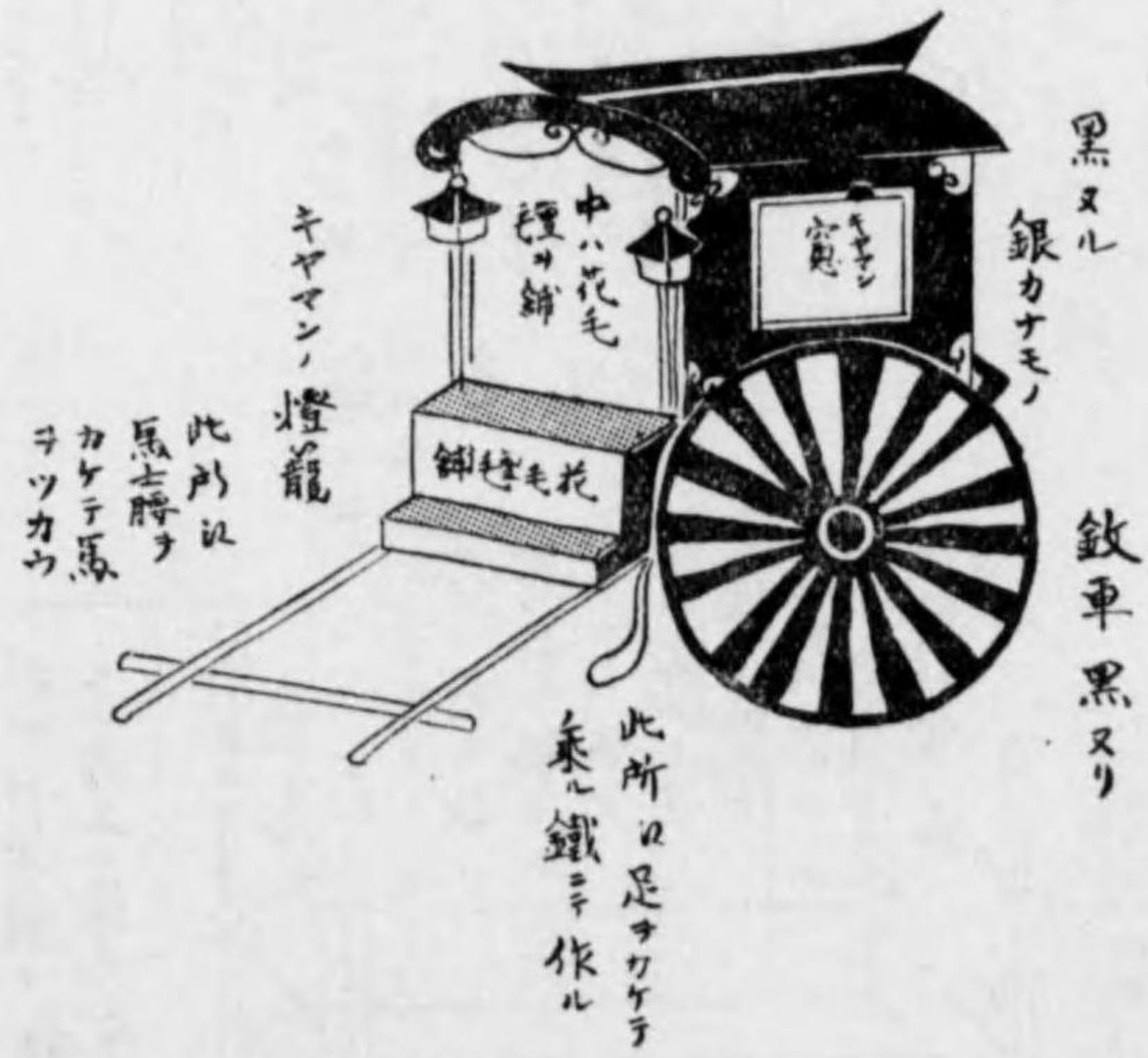
右日々食料ノ道具

寢之臺之圖

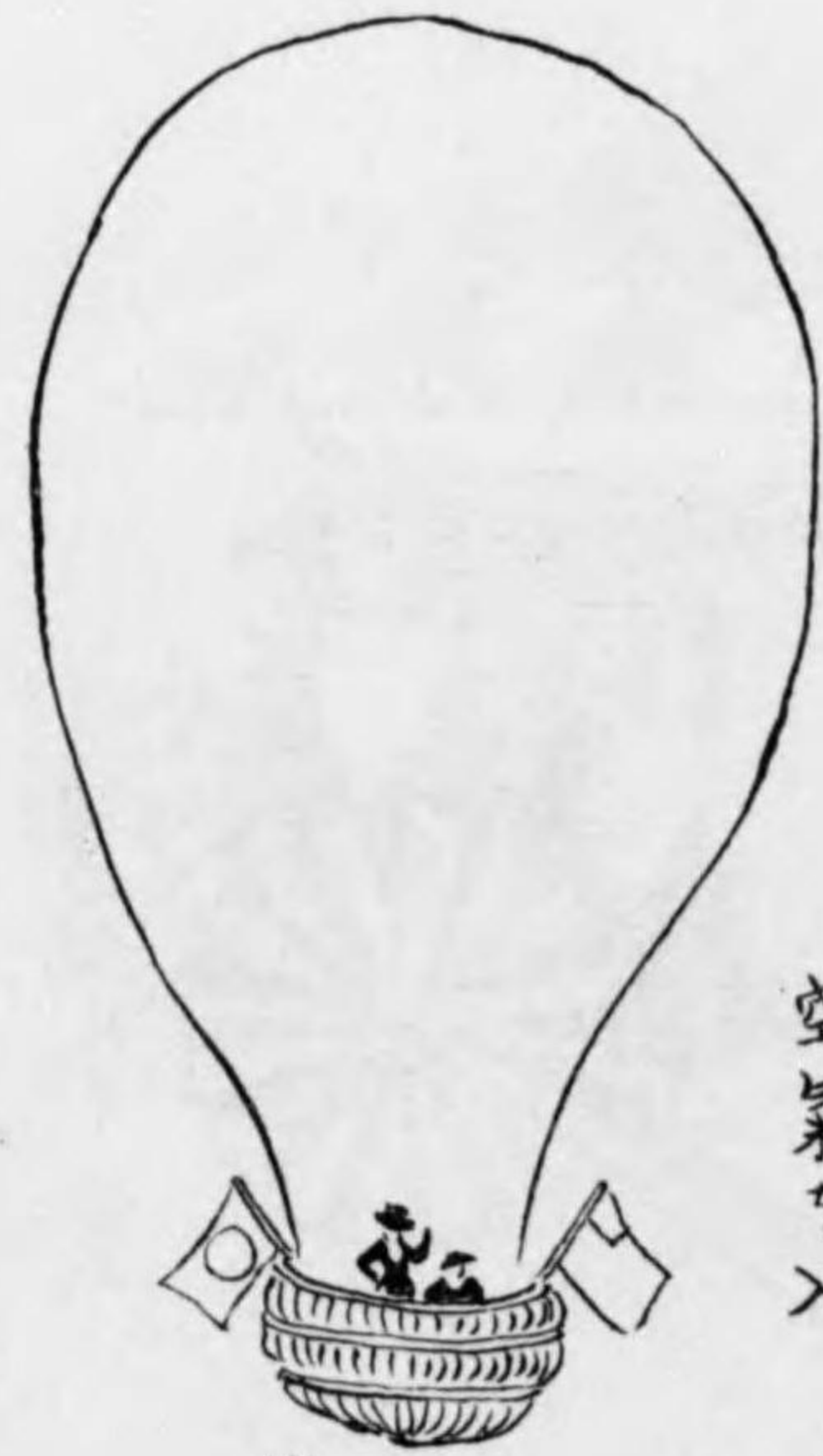


馬車、圖

米國ニテハ此馬車ヲ
我國ノ駕籠ノ類ニ
用エルナリ



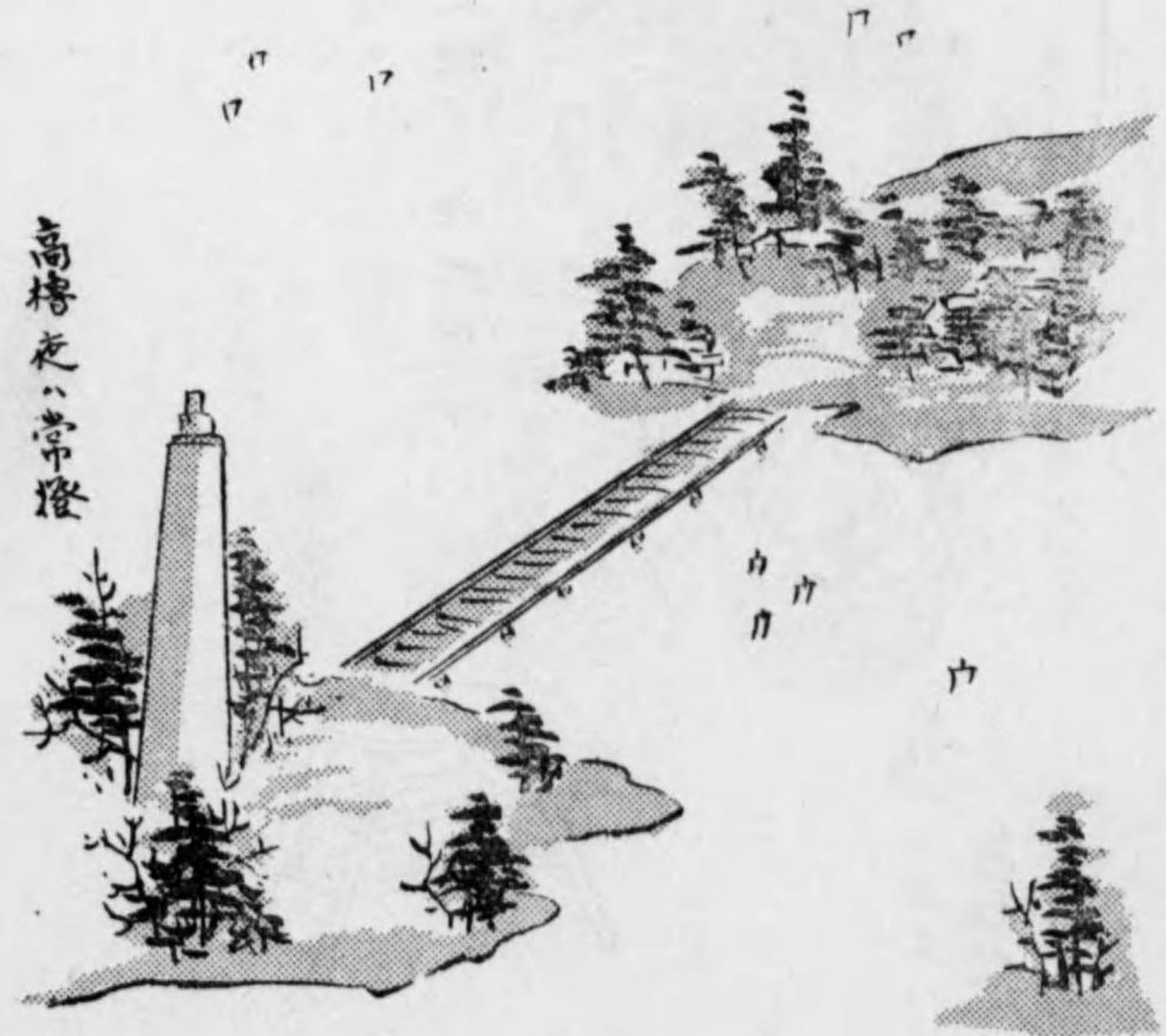
風船之圖



米
行
日
記

航海日記

壬三月
晦日
シテント
庭上
望之園



高塔夜の常燈

四百四

米行日記

正月十八日晴

余此盛行に従ふて米國の迎船包巴丹蒸氣軍艦ニ九ツ半時築地海軍所より小舟にて乗移る船中の設けハ略之同行七十六人乗移ると直に樂を奏し祝炮十二發にして即時に蒸氣を發して横濱に至りて碇泊す

正月十九日天晴寒風尙横濱に碇泊す外國御奉行赤松侯來り玉へり夜に至り水夫二人をして小舟我端也にて食料の生牛を積み入しめんとして船轉覆して一人溺死す我國の水夫二人は幸にして死を免る

同廿日天氣前日の如し此地在留の英國の「ミニストル」より此の行の事を拒遮したる故を以て船を發せすと云

同廿一日陰午後降雪今日ソント日曜なるを以て船發せず四ツ時船中銃

鎗操練あり

同廿二日晴夜中降雨朝六ツ時蒸氣を發して方位辰巳の間に向け半時計にして鴨居浦賀を過て南に向ひ安房の岬を左に見たり午後方位卯の方八ツ時銚子を北に見たり蒸氣馬力強くして船行迅速之

同廿三日雨北風降雪船動搖甚しく同行の人十に八九ハ船の注に苦めり午後に至り風波益猛烈にして船上怒波を打越船中にも漏れ入たり

同廿四日北風激浪昨日に倍して水色藍の如く天陰鬱怒濤目を遮て咫尺を辨すへからず然とも唯方位東北に向ひ走行甚速之午後より北太平洋海に入とそ

同廿五日寒風激浪尙昨日の如く船中に潮水滿て恰も川の如し夜八ツ時過水夫一人帆檣繩梯より落たり然とも死には至らず

同廿六日天晴風波漸恬然苦注人生を得るか如く枕を上げ食に就たり洋中鯨魚を見たり

同廿七日天晴南風夜に至り風雨暴烈波濤激怒其勢船を捲んとする如く餘勢船中に打込ミ潮水流れて川の如く船動搖三十五度に及衆皆色を失ふて人心あるものなきか如く終夜相俱に彈丸を轉する如くなりマトロス水は勿論米人ハ惣勢の必死に防禦を爲し船將も出て指揮して惣勢を勵す既に破れ覆んとするヲ數廻にして遂に破摧數ヶ所に及ひ又右の方に釣る所のバツテイラ船小一艘海中に没溺す米國總督官航海既ニ十五年を経たるも未此の如き暴風ノ危難に逢すと之風度少く倍せは帆檣を折るの外術なしと云へり曉に至り風西北に變し漸平穩なり

二月十四日東方將に曉んとする頃回顧するに隱々たる雲中に高山有を見たり同行輩皆欣々然として相告て曰是則「サンドイス」島之と去る程を計るに四千五百里之其間更ニ一舟孤島をも見さりき六ツ半時比此島の港「ヲワホ」の三里外に碇を下す島人直に小舟二艘にて迎來り港内に嚮道し岸を距る二町計にして碇泊す港内に泊する英米船合して十四五艘之此

地に在住する米國の士官小舟にて來り船將と談話須臾にして歸る八ツ時に至り全權を初めパツテラにて上陸し二馬車に乗り旅館に着す途上見物する者群集せり此嶋南北ハ北緯十八度五十分より起り廿二度に止り東西ハ西經八百五十五度より起り百六十度ニ止る嶋嶼相連り華淮猛維加浦魯會刺乃沒錄吉尼沒爾海河呱浦此島に首府を設島主此に居達淮烈弗亞尼法喬獵以上十一嶋連簇せり千八百七十八年格古氏人名英國有是を發明し其舶長サンドイス名の名を採りて嶋の名としけりと之同行上下七十六人五家ニ分ちて投宿す此館ハ佛蘭斯人造營する所の二層樓にして練瓦石を以て作れり每屋室數二十計各室毎に寢床監盤大鏡櫛腰掛けを設床上綿布にヘリニスを以て塗り形を置し者を舖けり彩色美也又瓦斯燈を點する管を備たり鯨魚を以て製すと云

同十五日終日戶外見物するもの夥し群集を見るに爪匏經り二三尺の者を割て其半腹に箇々菜根魚類を入る之を荷ひ販き來れり或は車上にて販き來るもあり季候ハ良宜にして袷衣或は單衣を服するに宜しく凡此島年間の季候盛冬寒威なく盛夏炎熱なく大略中度の温を七十五度とし六十度八十度上下の極度たりし由然れとも降雨常なく忽晴忽雨一日數次故に土人出るに必雨具を携へたり山頂常に雲を帯ひ冥蒙見るへからず同十六日米國の商船サントイス港に泊せり此船我箱館に至る由を聞書翰を托せり午後與數輩市中を遊觀す國王の居館ハ旅館を距る事四町東方に在て要害壘壁を設けす前に石塀を築き三箇の石門有門中高く旗章を連て銃卒衛護せり彷徨の間洋人の別莊に過れり主人誘して室に入種々を什器を見せしめ少女二人出て琴瑟の如きものを彈して我輩を興せり舉家の人男女となく手を握りてグルモノ我國にて早しハリシユ天よきと云り總て西洋一般握手は禮にして最も親き者には男女となく口吸を以て禮とせり市中の人口八千人計にして島人は七千人計其他ハ米英支那亞佛利加人等來り土着し米英人は多くは商店を開き支那人及び島人

は僅に菓實の小店を開けり亞佛利加人は多くは僕隸たり且餘り多くは見かけさりき大凡家居ハ材木を用ひたり或は煉瓦石にて數層の高樓もあれり廣大の造船場帆船工作所及府庫の類蒸氣裝置を設くる工作場又劇場妓樓あり書舖藥店酒店衣服絹綿硝子等を商店備れり黄昏館に歸る同十七日此嶋の概略は僅に五十年前迄は文字なく史祿なく穴居野所したる島民而已にして教化禮義なく無智暴殘にして唯鬼魅の邪神を信し適航客を見れば直に來りて之を餓ひ最甚しきは子を産めは土に埋めて之を踏殺すに至るの狀禽獸に異なる事なかりしか格古氏カクコ此人此島を發明せしハ諸方の人民爰に轉居し諸島各會長有しとそ土豪タメハハと云人出て悉く諸島を一統し政教刑賞の權を司り風俗稍變せり其子リホリホに至り悉く淫祠邪神を毀ち棄て耶蘇教に改革せり是に於て弘法師諸邦來り大ニ教化を施し寺院を立て學校を開き法教を開きヒコウ全島上學校三百五十計生徒一萬八千人計にも及へり方今會主ハ第四世にしてカメハメ

ハと云今を去る事十三四年前迄ハ惡風尙殘り人を餓ひしもの有しとそ方今教化日に開け其風全く止みて友愛の俗となれり加之官職律令器械工作洋風ニ倣ひ日々奇巧に進めり人種亞細亞白哲人黑種人の三種あり島民は髮毛黒く長し面色赤黒肢體寬厚手足ニ黥をなす衣服冠帽西洋に均しく跣足履を着けず人品至ハ卑賤言語は自ら一種の音にして發聲短促吃るか如し婦人は最醜且賤しく衲衣コロモの如き卵花布ヲの長き衣を着し帶を結はす黒長の髮毛を辮して組となし頭に纏ひ護謨或は角製の大櫛に種々の草花を纏ひたるを挿たり櫛の長さ尺其兩端曲り反りて上ニ向ひ角あるか如し耳に銀環或ハ眞鍮環を珠數の如くに纏ひ或ハ青玉白玉の頸環を用たり全島上人口略八萬計にして米人二千人計英人支那人二千人計亞佛利加人五百人計なりしとそ爰に一大笑の事あり十四日の夜は同行の輕輩迄には盡く寢衾の手當なくして困たり四五輩相議して曰らく萬里の波濤を涉り來り適旅館に着き寢するに衾を擁せず空く病に侵

されんより不若妓樓に至りたらハ衾を得へしと淫奔の情は聊なく唯安眠を所望するのミにして竊に數町を厭はず手真似にて辛らく尋出し投宿を請へハ彼鬼狀の醜婦相競ひ來りて頻りに握手をなし或は手を携へて室に入るとなしたり傍を見れハ土床上に同寢をなせるもあり是に於て大に興を覺し急ニ去て又他方に行く土人に嚮導を請て又一樓に至る亦同しよつて大に望を失ひ歸來して曰らく譬風病に侵さるゝも豈鬼婦人に侵さるゝに若んやと云を聞て大に一笑せり產物ハ平地より多く小麥を出し山谷に骨喜砂糖甘蔗椰樹木綿煙草カ、ホ葉名アツルウロト、ヤム草根山の芋の如きもの野菜類ハ菜大根瓜西瓜里芋密柑魚類ハ鱈江鮎の類の者あり白檀は此島の名産之昔ハ是を最上の貨物として支那と通商し支那人檀香島と稱せりとそ而る頃一時に商利を貪り夥しく伐り出せしを以て林藪稀疎となり今ハ稀之と云又夥敷鶏豚牛羊を産す此に奇なるハ鶏鳴なり夜亥の時々第一鳴を初め子時に第二鳴をなし終夜其聲沸くか如く

し四方に喧し獸類ハ珍敷者を見懸けざりし蟲類ハ蚊蠅等多し家々多くハ芭蕉を植エ花を開き實を結ふヘナ、と云形チ三稜をなし長さ四寸計二十計ツ、層をなし葉間枝を抽て攢束す其熟するものハ黄色なり皮を擘ひて是を食ふに其味甘しテホヲホレと云樹あり總て八手樹の如く葉下ニ數十箇の實を結ふ大さ橙のことし皮肉共に黄色甘味あり是又圍圃の周りに夥しく植たり砂糖麥長七八尺大サ腕のことし彼巨大の匏實大サ桃實の如く外膚赤く滑ニして李實ニ似たり水氣ありて味淡美也サボテン樹あり高きものハ貳間に至り枝葉繁茂せり椰樹ハ濱邊に多し葉ハ棕櫚の葉に似て長く幹ハ棕櫚の如し葉間に數箇の子實を詰ひ大き頭のことし其核中清水充て傍に脂肉あり米人好て之を食ふ其他奇樹異花枚舉するに遑あらず

同十八日朝晴夕ニ至り降雨總督官全權方を始御役人方を誘道して國王の居館に至る往還ともに二馬車に駕し玉へり予亦午後出行市中を遊觀す

十一二才の童子吾輩を誘ひ一ノ寺院に至る家屋の造營尋常に異にして門戸の前面兩側に笱狀の如く直立したるものあり堂の正面及左右に祖師の肖像を硝子を以て是を掩ひ金銀を鏤め美麗に飾り又其左右兩側に掛る所の畫像を見るに祖師一世の苦身を悉くあらわせり正面に對して後面も高く樂器を備へたり堂中廣き所に數百の腰掛を設く又此所を去り諸の市店を徘徊夕陽旅館に歸る

同十九日天晴朝五ツ半時頃より出遊適米人居家を通るに婦人予か輩を誘ふて縫室を見せしめたり其器械の概略を擧ぐれハ高サ三尺長さ壹尺五六寸巾壹尺許の臺あり臺上縫具を設け臺下に兩足にて踏む可き鎧に似たる小鐵器あり傍に鐵製のロクロの如き物を設けたり縫人ハ其前に腰を懸け左右の足にて臺下の器具を織機を爲す如くに踏み其ロクロを轉回して臺上の針線を運動せしめ縫ふ事尤迅速也夫ハ市街を彷徨し夕陽館に歸る夜に至り國王の別莊に全權方を始め士官の人々を招待し響應

せり五時諸君歸館し玉ふ後從者交互に其席ニ至る余ハ米人の士官に誘れて深く響應せられたり席上ニ備頗奇にして數品の草木花を並へ樂を奏し躍をなすを見たり樂人ハ包巴丹船が來れり舞人ハ此地に在住する米人と包巴丹船の士官也國王も夫人及び妹女を携へ來りて共に躍を爲す此躍ハ男女相携ニ手を以てし男ハ右手を婦人の肩に掛け每耦二人ツ、衆耦相連樂音に和して進退舉措足を以てするのみ然し規則正しきなる手皆同一機に出るか如し四ツ時館に歸る其夜深更ニ至る迄樂音絶へず聞へたり彼等にハ最一の遊興たる事乎と思ハる

同廿日晴今日午時過全權方を始再包巴丹ニ歸抑此島ニ數日着して前日の破損所を修補し及び薪水糧食石炭を載納したりしと也石炭未載納し足らすとそ

同廿一日晴石炭を載納す終日東西に來去する鯨漁船二艘を見る此船ハ三橋にて長サ三十間計にして大炮を備へたる小船數艘を積ミ鯨魚を見れ

は則直に其數艘を浮へて大炮を以て彈射し獲ると也其彈丸に二種ありしとそ

同廿二日晴寒暖七十五度にして日中ハ頗る暑氣を覺ゆれとも朝夕ハ冷氣を催したり尙石炭を載納す此島石炭を産せず米國より輸送し來りしものにして其根元はコモートル^{名官}ヘロリ^{名人}始て皇朝へ來航の事を計りて止む事を得さるときの急務ニ夥敷貯置たるもの也とそ

同廿三日晴寒暖如前日石炭を載納する爲に不發船英國軍艦一艘入港す

同廿五日或晴或雨全權初七十六人交互上岸して沐浴を爲す余ハ午後上岸して夕陽船ニ歸る

同廿六日晴四ツ時頃國王の婦人妹女二人從婦四人を俱し船に來り船將の室に於て嬰應しける體也八ツ時の頃國王又從卒八九人を從へ來り哺前歸去す其形裝米衣に同じく金鎖を以帶となし劍を帶したり顔色は土人と同じく黒くして逞し夫人ハ米人也しとそ妹女ハ黒色也國王の來去毎

に祝炮十二發し樂を奏す

同廿七日晴夕八ツ時ワアホの港を發し方位東北ホノルー島を終日左に見たり觸る所の山谷巍峨として景光畫の如し未此島の南海を離れず並行して日西に沒す

三月九日晴東北風曉七ツ時頃ハ船の前面に當りて燈火見へたり米人唱へてライトワウスと云散^{サンフランシスコ}沉思斯哥港へ航する證に設くと云朝五ツ時にして其嶋左方十三四町南方を過く此嶋時は裸山にして石巍峨たり山頂に五六丈もあらんと思ふ直立したる者あり則先に見へる燈臺にして此火光數十里外に徹するもの也此嶋を去十四五里にして合衆國の西岸にある新加利福尼亞^{ネバダ}都府の港サンフランシスコ也北緯三十七度四十八分五秒西經百二十度二十四分港門ハ太平洋面に面し兩岸山峰繞り圍んで我長崎港に彷彿たり連峰陸續一山盡んとして一山又出て山皆樹木なく青草繁茂し一般の青々中所々に粉壁を見らわし港内には帆檣林立して風景

明媚畫くか如し礮臺三所二ハ港口の左岸に築き一は港内の孤島上にあり總計煩數二百餘門に及ふへし戍兵あり傍に小舎を設けたり此兵三千人云ふと港門より内ニ一里計午時碇泊此時米國の軍艦より我日の丸の旗を擧げて祝炮十二發す包丹巴船よりも六發答祝す須之して米の士官ハツテラにて舟に來り我威臨船先に到着のヲを告げ且暴風波に遇ヒ辛して死命を遁れ今其御船ハ此を去ル事七里メール島の海軍所に於て破損を修補する由を述たり勝先生及友人岡田生の無恙を聞て大に安堵す八ツ半時碇を上げメール島七ツ時半碇泊す此地に大河有深數尋にして大船直ニ岸に沿ふ可く其源ハ湖水より出て爰を去るヲ五百里我二百と云廣灣七八里に及へり其水を嘗るに少く鹹氣ありメール島の岸ニ大煩六十挺を二段に備へたるフレカットありて大砲十二發を祝す包巴丹船答祝六發須之して威臨船より勝先生を始め士官四五人來り玉ふ予先生に謁し康寧を賀し且風波の難を聞き最恐怖するに堪たり其暴風雨に逢

玉ハ正月廿六日なる由予輩苦しみとハ一日相違せり其如何を知るなし同十日四時木村公勝先生兩君船に來り玉ふ予上岸して煉瓦石を以て造營せる高大なる家五六ヶ所あるを悉く過りて是る見るに凡ハ海軍一切の器械を製し及蒸氣の機關を以て銅鐵の器を鍛練する等の所にして其巧便言盡しかたし木村公勝先生を始諸君の客館ハ岸を去六町計にして煉瓦石の大家なり周圍に廣く園圃を設け百花爛漫たり予其家に至り岡田生に面し相俱に難苦を述て故土を出已來始ハ愉快たり

同十一日兩全權を始小栗公方サンフランシスコ散沉思斯哥遊覽及沐浴の爲に午時川蒸氣船に乗り行き玉ふ士官及從僕に至る迄半ハ船に止り半ハ從行す余又從行せり八ツ半時着岸し直に二馬車に乗り海岸ハ行程十町計にして着館せり此地は頗繁花にして家屋造營煉瓦石或ハ白石を疊み上ケ四方の壁となし鐵石を柱となす或ハ木を用ゆ土床は磚石を敷き室内營構ハ木材を用ひて黒漆白漆を塗たり硝子金石を以て飾りとなし最美麗なり人家稠

密街巷頗る整齊にして兩側の軒下に高く瓦石を敷き行路を爲し正中に瓦石或ハ板を鋪車馬の行路とす同行一館に宿したり則チヨキソンのインテナシヨナル、ホテル旅館ハ五層樓にして壯大なり樓の高さ五十尺許一層毎に數十の室あり一室廣二十五疊鋪より八疊鋪を下とす館中の室數惣計百三十六部室の扉上に一二の記號を次第に標し每室開き戸にして錠を設け寢床盥盤大鏡手燭發燭子を設け又瓦斯燈を點する管口を備へたり寢床上にハ白き蚊帳の如き者を下して寢狀ををわしむ壁上鈴索を懸け僮僕を呼ニ便にす管店管店の居所ハ樓下管店にあり每室の鈴百三十六箇を其周圍の壁上に順次に繋ぎ第一より第百三拾六迄の文字を記管店其鈴音を認メて直に僮僕を呼ひ其用を便せしむ第三層樓ニ高堂あり歌舞をなす所にして采飾最奇麗なり食をなす時は銅羅を敲き之を報して一堂に會食せしむ食堂の長さ凡十七間巾七間計堂間三列ニ長き食卓を按し卓の周圍に椅子を並ふ一卓六十人三卓惣て百八十人を會食せ

しむへし朝飯ハ六ツ時半より始り五ツ半時に至りて交互ニ食に就畫ハ九ツ半時ハ七ツ時ニ至る夕ハ六時ニ始む食物ハ蒸餅砂糖鹽胡椒酢醬油等數品及び冷水堅氷硝子瓶を與へ又食匙戩刀クニツ又手各一箇を添ふ館中酒店衣服及日用の小貨を賣る所あり其價頗る大なり扱其館中商店ある土人と雖舉族奇寓して産業をなすを以て然りとかや大凡此地の開創を尋ぬるに今を去る事十二年前彼千八百四十八年ニ加利福尼亞初ハ三十三部落の中ニ加りたる時ハ同九年五月の比迄ハ此散沉サンフランシスコ思斯哥府の戸數僅ニ三四十家ニ過さりしか其近傍に莫大の金を發明せしを以て不日して戸口速に蕃盛し四ヶ月の間に人口五六千戸數五百に及へり抑金山發見の根元ハ千八百四十八年二月の末ニ葛必丹カホヒダン名朱篤兒と云人新ニ人民を新歇兒歇空村ニ移植しけるニ其民川を通せんとして地を掘るに不思議ニ金礦の脈に掘り中てたり而て此事遍く諸方ニ傳聞し聽くもの皆其財利を分たんと欲して集來し而し又新トラ地名金礦夫千餘來り忽開礦の業

を始めたり又商人街吏醫師諸匠船長水夫等相競ひ來りて各其業ニ就同年七月ニ至り諸州より來業に就くもの一萬五千人是日に加り月に倍し忽ち二倍三倍となり方今人口十萬ニ及び其内支那人六分一にして別に一巷を爲し或ハ傭作僕奴となり或金礦夫となり又ハ小商店を開きて豆腐を製す都而支那店ニ至れハ夫妻出て茶菓を勸むる事我邦俗ニ同じ然れとも其人品瘦弱垢穢にして西洋人の爲に鄙しめらるる金脈ハ加利福尼亚部中所々に發見し北の疆域ハコレコンの邊及ヒタラマト川中に見出し又サンヨアクキム、サクラメントの谿間より金脈遠くなかれ北緯自四十一度三十七度ニ至る我百七の間ニ至る迄地底所として金ならさるなく其掘出すも亦莫大也と云金銀座有て貨幣に製造するに一日間五萬四百箇を出せりと云皆蒸氣機械を用ふると也傳信機を設る所ありて諸所ニ通す急用を告げんと欲するもの價を出し之を頼むに數百里の遠きと雖も一瞬の間ニ銅線を通して立所ニ其用事の往復をなす此テレガラ

フハ熟見を待て記せん講武場學校數所あり又劇場妓樓所々ニありと云産物ハ櫟、榛、橡、大麥、阿禮機、麻苧、野菜ハ略サントイスニ同じく禽獸魚鼈草木等及銅、水銀、鉛を出す所又多し

同十二日雨八ツ時官舎を發し二馬車ニ駕し海濱ニ至り川蒸氣ニ乗りメル島ニ歸ル薄暮着す先ニ残り玉ふ所人々其船ニ乗行玉ふ

同十三日小雨メールニ滯泊す今朝より石炭を輸入す

同十六日晴八ツ時碇を上メール島を發して七ツ時散沉思斯哥ニ着して碇泊す

同十七日晴勝先生包巴丹船に來り玉ふ別離を告ぐ包巴丹乗組の内伊勢屋賄方之内一人サンドイス邊を宿病の梅毒發して米醫ニ請て種々療養を加ふと雖とも治せず故に咸臨丸に托してサンフランシスコの病院に入る咸臨船ニハ水夫等傷寒を病むもの甚多く士官獨勝先生此病に犯され玉ふて飲食を絶し給ふ事三日殆危迫ニ陥り給ひしに天助あり幸にし

て快癒し給へり今日包巴丹のコモトール及士官三人飛船ニ乗りハナマ
ニ至り日本人來着の事を華盛頓ニ發すと云へり

竊に案するに此病因ハ偏に衣服の製によるなるへし我水夫ハ綿衣を服
し雨水に濡たる時は乾きかたく且着替を數枚貯へざるを以屢着替へる
事もなさゝる故を以なるか洋人ハ毛職の服を服し數枚の着替を貯へ二
日隔位に洗濯をなし垢穢の衣を纏ハす故を以病者少き乎咸臨船此散沉
思斯哥ニ着し水夫死するもの三人病院に入るもの六七人と也

同十八日晴西風夕七ツ時散沉思斯哥の港を發ス門の煩臺より大炮二十一
發を祝す船よりも答祝六發して港口を出て五六里方位辰巳に向て航す
閏三月三日陰北風朝米國の高山を左方二十里計に見る八ツ時英國の軍艦
ニ逢ふ船將層上に出て合衆國のフレカット包巴丹ヒルソン我名を呼は
る英國船よりも亦然かせり且互ニ冠り物を取て禮を爲して過く

同四日朝晴今朝より左りの方に當て大山見ゆメキシコー山脈波及する者

也とそ五ツ時方位を變へバナマへ向く八ツ時より風雨雷鳴ありバナマ
ニ未至四五里にして碇泊す

同五日晴六ツ時バナマ港に着し岸を離る、フ廿丁計にして碇泊す此港門
西南に向き廣く灣となる包巴丹船砲九發を祝す碇泊の米國軍艦三艘有
り一の軍艦より日の丸の旗を擧て同しく十二發を祝す在住の米國の士
官來る港邊多小の小嶋嶼碁布す又突出したる巖山あり銀礦を生すと云
岸山稜綠樹蒼々中に椰樹亭々として抽んで最も奇景也八ツ時日本人の
荷物をコットル名船二艘ニ積岸上ニ上げ蒸氣車に載せたり米人の談話
に此地の土人貪欲にして金銀を見てハ死亡をも顧みず侵掠をなすと也
土人の船に來るものを見るにサンドイスに倍して黒色卑賤也港内泊船
ハ英國軍艦二艘米國軍艦三艘土船七艘計也

同六日晴此地より陸行してアスペンワルに至るへしとて同行上下各包巴
丹船の人々に訣を告美麗なる川蒸氣船に乗り移りて上陸す然るに正月

以來航海數十日の間船中の士官よりマトロスに至迄互に懇交せしニ今更別離の情を難堪米人等涕泣する者多し士官五人日本人に附屬し俱に上陸す扱此地は南北亞米利加の結合せる咽喉の要地也獨立新瓦刺那達カフナタのイストモに屬して一國を爲す惣稱中亞米利加と云其疆域北ハカリヒセ海及ヒタリオン内海に劃し南ハ把那麻内洋に止る東西長さ我七十里餘其中央ノ巾我十四五里餘最狭の所ハ十一里餘に過す北緯九度より十度に止り西經七十七度三十分より八十度に止り氣候炎熱一歲中太陽二面南北に過キ草木の花二回開發子實を結び秋冬落葉なく密茂鬱蒼就中異草奇木高樹大木を生す土地高低一ならず平地丘陵相連鋸齒の如く林叢濛鬱なる故か陰濕瘴癘の氣深く人畜に佳ならず其北岸にホートベロホートベロ、ガグレス、マンサニルラあり南岸バナマ街有て其兩間をキスマスと云是南北亞墨利加共ニ通行の道路にして山岳岩石の地ありて行旅に不便なるを以て陸地の最狭部廿二里の間山を削り谷を埋め平に鐵路を設け

蒸氣車を通し河ある所にハ鐵橋を架したり又車路に沿ふて傳信機を設けたり同行上岸僅かに歩め蒸氣車に乗る抑此蒸氣車ハ前に蒸氣を仕掛たる車を先立次に乗車の大車を鐵鎖にて七車を繋ぐ其乗車幅一間半長サ八間計高二間餘にして一輛ニ載五十人二人毎ニ榻及硝子窓を設け兩側に並居す中央に通路を開き又荷物食糧等をハ第二車に載す同行及包巴丹の士官五人と同じく七車に乗り其鐵道を行に響雷の如く走行迅速也半途に煉瓦石製の米人の居家あり酒肉店を設く此所ニ至て蒸氣車を止め全權始御役人方車を下りて其家ニ入りて休憩し玉へり主人菓物パン獸肉氷を出して饗す既に五ツ時半也送り來る包巴丹士官等訣を告げ去れり而して又車を發して行程五六里にして人家數ヶ所あり土人の粗屋にして板を以て四壁を覆ふアスペンワルに未至一里餘にして大河ありアスペンハルに通し川蒸氣船を浮む又途上炭薪を輸送する蒸氣車に遇へり四ツ半時着す此地煉瓦石製の洋人居家軒を連ねて齊整也戸數七

八百ニ及ふ可し酒肉菓物藥品衣服其他諸の品物を販ひて頗繁花也車を下り僅ニ歩みてローノク蒸氣船軍艦船に乗る此船ハ華盛頓より命して日本人を待つこと昨年ハ一年にして漸着するを見て直にハツテラにて迎へたり此船長五十間横七間二段ニ大煩を備ふ炮門六十上段に六十斤下段に八十斤を備ふ士官水夫ニ至る迄惣乗組五百二十人とももの二段目に全權を始め士官の人々を迎へる美麗の室を兩側に設け又從者の居所も同しく設たり帆木綿を長く張て居所の屏となす港内碇泊十五六艘英國船三艘米國船六艘其他ハ何の船と云を知らず此地至て炎熱にして寒暖計八十九度船上八十七度

同七日晴四ツ時解纜寅卯の方に向ひ航す八ツ半時ホールトヘロフに着し碇泊す此地に航客水を探る所ありてポンプを以て直に船内に導送す傍ニ一粗屋あり夫妻二人之を守る水一カルロンの價トルラール百分の五と云夜中豺狼の吼聲を聞く

同八日晴四ツ時より上陸し洗衣を爲す此地新瓦刺那達の一港府也北緯九度三十四分二十九秒西經七十九度四十三分二十六秒氣候炎熱瘴煙毒霧多し港門灣を爲して四圍の山嶽相連綠樹陰鬱且猛獸毒虫蝮多しと云水守の主人椰子實を切て其水を我に與ふ其味少しく甘味あり身體を壯健にすと云其使令の僕山より怪異の物を携へ歸る其形トカキリに均しく長さ二尺五寸計腹部ハ赤黒色背中薄黒鮎の如き形あり毒虫にして人聲を聞て飛來り人を喰ひ死に至る者ありと云故に山ニ入には必短銃を携ふと云漁夫あり木をくりて舟を製し食七の如きカヒを以て水をかき業をなし且魚或ハ鷄菓實の類を販き來る價頗廉也夕七ツ時ホウルトヘル港を發し方位東北

同十三日晴東風夕七ツ時東の方に當てイスパニヤ領キユバ島見ゆ此嶋北緯十九度五十分より二十三度九分に至り西經七十四度八分より八十四度五十八分に止り其地形細く長し其最も長き處ハ我カ三百九十五里幅

廣狹一定ならず我カ五十二里餘より九里半計ニ至る人口凡百三十一萬八千計黑白二種の人^有て諸の物品を産すと云アスベンワルより此邊の海をカルピン海と云薄暮キユバ島の西岬を三里許隔て東北ニ過く燈臺高く直立し人屋見ゆ

同十八日陰る東風晡前より雲務四方を掩ふて咫尺不可辨夜に至益甚し此邊航船多く行遇んことを恐れて船表にて屢小銃を發し又蒸氣の沸騰力を側より抜き竹貝の如き音を發せしむ夜中ハ常ニ前橋のマルスの上に硝子燈をかゝけ又船の兩側に赤青硝子燈を點し右方ハ赤色左方ハ青色を以てして我船の左右を辨せしむ是等は則西洋一般の定則也と云

同廿日陰東風四時左方に合衆國地方見ゆ所々に高く直立したる燈臺あり數十艘の航船に遇ふロング島の右に添て走る眺望するに平地にして山嶽なし薄暮ニウヨロクの港に未至我八里計サンテイホクと云港口に碇泊す帆印に番數を書したるスタフチル一艘船に近き來る是ハ日々沖合

に出てローノフク^{名舟}の著するを待てニウヨロクに報するか爲也とそ其船の士官一人來り船將と談して歸る夜中小蒸氣船^{是ハ通來る士卒指揮官エステーション名}其船に來りニウヨロクに上陸して日本人來著の事を告且上陸のことを計ると云三更に及ひコツトル船一艘花盛頓よりの書翰を持來る其書中にニウヨロクより上陸不便にして直に花盛頓へ着船すへきとの事を命し來る然るにローノフク總督官船將ハ此地より陸行然りと爲し即時に船將其コツトル船ニ乘り上陸して華盛頓^{テレカワ}へ傳信機を以て應接すと云此地泊舟數艘遠近五ヶ所に燈臺赫然たり

同廿一日陰夕陽に至り船將ニウヨロクより歸來り愈ワシントン^{華盛頓}へ着船に歸するを以て明朝船を返すと云元此ローノフク船ハニウヨロクノ船にして總乗組の内過半其土人にして一年餘もアスベンワルに在留し適々我港口に歸り又船を返すを以て大に歎息す此夜マトロス一人病死す同廿二日陰午後晴東風午時舟を發して南に向ひて航す昨夜死する所のマ

トロスを水葬にす

同廿三日朝晴午後陰方位南にして右に合衆國の地方を見る夜五時ウエセ
ンニアと云河港ニ着し碇泊すサンテイホクよりウエセンニヤ迄の行程
凡我六十餘里と云

同廿四日朝晴此ウエセンニヤ河港は東南に面し河中凡七八町平流にして
水底深し其河源をしらす南方河中に一箇の砲臺を新に築造なさんと略
其形成れり北方に人家三百戸計二箇の寺院あり又北方の下流に沿ふて
十町計に一の砲臺あり午時花盛頓より迎ひ上等の士官十四五人計河蒸
氣船に乗り來り八ツ時祝砲十二發し同行七十六人其船ニ乗移る此船階
を四層に設け長さ三十間巾五間半計四層目に日本人の居所を設け又三
層の舳に食卓を備へる類奇巧を盡し又兩側には寢床百三十箇を備へ都
て采色ニハ金を鏤め窓は硝子を以て掩ひ毛織のヒロートの如くなる物
に草木花或岩石の形を織出さしめ普く室中に鋪き甚美麗を盡せり夕七

ツ時碇を上げ河流に従ふて航行すること十町計而て碇を下す此處に砲
臺あり陸岸に一ペロトンの銃卒出て日本人の上陸を警衛す兩全權小栗
公及諸君を誘ふて上陸し砲臺を遊覽なさしむ同志の者十四五輩陪從し
て見るを得たり此砲臺二郭となり内部は六稜角に築けり東面に卑く外
郭を築けり兩郭を備ふる處の砲門の總計凡四百門外郭に六十斤煩内郭
には八十斤を備ふ其構頗る巖也又其郭内ニ六斤十二斤の野砲數門有り
戍兵ハ妻子と共に郭中に在番せり外郭に烙丸を燒火する室二箇あり其
備ふる處の煩も船用ニ同く皆フラソコの形に似て中身より前部に至て
稍々殺削せり夕七ツ半時船ニ歸る即時に碇を上げウエゼニヤの河港を
出海岸に沿て方位北に向つて走り花盛頓ニ通航せる河口に至るとそ未
至日西ニ沒す夜中雷鳴大雨沛然として余輩其河口に至るを知らす此河
をボトンマキと云源ハ二脈ありと云一はアルレガニス一はコムベルラ
ントより出るとそ河口より華盛頓迄我百三十七里九丁リニ大船の船

船も直に到着するを得ると云

同廿五日晴河水平流河幅の廣狹一定ならず八丁或は十四五丁に及ぶ土地は平坦にして遠山をも見す兩岸人家希にして林叢青々と繁茂し河水は満々として水勢強し浜航する七八十里計にして左岸に一村あり朝五ツ時前所に船を止め朝飯を喫す饗するに酒魚肉菓子果實を以てす須臾にして又船を發す行程通船數艘に逢へり又小漁舟あり長く網を張りて流魚を待つ我立網の如し又一艘の火輪船に逢へりニウヨロクに至ると云其船より我船に鉛に紙を卷て投納たり是則ワシントンの新聞紙なり日本人今午時ワシントンに着することを其端に書せりと云花盛頓に未至四里計右岸に一箇の炮臺あり又二里計左方に人家あり凡七八百戸もあらん乎家屋の造築も壯麗に見へたり此より一里半計にして河流東北二流に分る船を東北に航する十丁計にして左方に海軍製造所あり岸に至り碇を下す時を計るに既ニ四半時なり即時に官服を着し劔を帯ひたる

上等の士官十五六人來り使節來着を賀し兩全權小栗公其他御役人の手を携へて上陸し凡一丁計歩いて共に二馬乗車に駕す追次に同行同しくミナ車に乘れり見物の男女群をなし車に近づき握手の禮を爲んを請ひ或又名簿を請ふに殆困せり連車悉く整齊するを待て發行す途上見物の男女車歩群集して僅に行路を通す彼銃隊四拔隊ハタケを二箇に分ち連車の前後を固め樂器を調音し歩法を整齊す市街の人家櫛比し悉く煉瓦石を以て四層より七八層樓に及ぶ其造築も甚壯麗なり行路は高樓の層上に至る迄男女群をなし各皆小サキ我日の丸の旗或は手拭の如くなるものを上げて招けり人種は白黒の二種あり黒種は往昔米國の土人にして白種は悉くヨウロッパ人種なりと云而して十ガ二分は黒種也海軍製造所より行程一里半にしてイエレットホールと云旅館に八ツ時着す煉瓦石製の六層樓にして室中頗美麗を盡す日本人寓室は三層樓に設く總て毎室の設け散沉思斯哥に均しく備はらさる所なし

同廿六日晴此旅館の經一町巾半丁計にして旅客の爲に數百の室を設く八疊を下とし三十疊を上とし之を總計する數六百餘室と云全權三公の如きハ就中最美麗を盡せり四壁に大なる數箇の硝子額を掛け物器ハ悉く金を以鏤め窓ハ硝子板を以て掩ひ室中毛織ピロウトの如くなるもの、最一の品を備けり室中に入れば輝光眼を射て其美譬るに者なし早朝より官服帶劔の士官數十人來りて使節の來着を賀し或妻子を携へ來り訪ふ者多し其人物甚温順なるか如くにして男女ハ必手を携へて歩行す童子といへとも敢て日本人を忌諱することなく傍に來りて握手の禮をなせり食するに長き卓を置周圍に數十の腰掛を備ふ食物は蒸餅獸魚鶏卵菓子果實牛酪砂糖燒鹽酢醬辛粉油カラシ等也朝飯にハ必ず膏喜白湯水水等を用ひ晝飯夕飯には膏喜を退け白湯氷水のみ也

同廿七日晴午時全權を始御役人五六人ミニストル事務宰相の館舎に枉駕し玉ひし夕刻歸館あれり今日より同行貴賤隔日に沐浴す浴室は層上に設け

長さ七尺巾二尺深さ一尺五六寸位にして悉くブリツキ製なり傍に湯水二箇の銅管を通し其銅管に龍頭の如きもの有りて螺を設水湯を我か適宜ならしむ又底に穴有銓を設く之を抜けば其湯流失す都て貴賤上下となく一人毎に湯を替去て彼銅管より流入て新にせり家室中に一箇の蒸氣機關を設け人力を減す其奇巧述盡し難し慨畧を舉れハ湯水を數層の樓上へ上げ或庖厨の用或衣服を洗濯し又蒸氣の火勢を引き濕物を乾かし或正角六尺計の木臺ありて最下の室より數層上迄器物を載せて自在上下するを得る又厠に至るも水管を通し便終りて左側の螺を左轉すれば水噴出す右轉すれば止む又右側にシモクの如きとりてあり是を引あくれハ其水忽ち流下し糞汚を殘らす洗ひ流して清潔ならしむ其他の用方枚舉し難し家内雇人奴婢合して七百人餘と云へり食堂ハ六ヶ所に有り其内の一箇最大なるあり長三十間横五間計にして食卓長さ三間半巾四尺計なるを數十箇備へり一卓腰掛十四脚を設く惣計するに六百餘

人を會食せしむへし堅氷を貯藏する場所を見るに床下の地下に横に長く穴を穿ち四面を煉瓦石を以て圍ひ中に麥ハラを舗き其上に之を藏む其室中に入れハ寒氣堪へ難きに至る又傍に箱ありて獸肉魚肉を貯ふ夜中ハ街路の左右に高さ二間計の瓦斯燈許多あるを以て夜行に燭を携へる者なし

同廿八日陰今日四時半時兩全權小栗公始メ森田公成瀬公塚原公日高公刑部公合衆國大統領ボカナの居室に我が國書を持し至り給ふ往返ハ乗車に駕す従者は車の前後に従ふ諸公は皆烏帽子素袍大紋を着し玉ふ其他の定役壹人御小人目付壹人通詞二人ハ皆麻上下を着す行路警衛銃卒一拔隊バクタイ四百乘車の前後左右を警固す旅館を出て行事四丁計にして一箇の高閣あり廣く周圍に鐵籬を設く庭中に泉水樹木あり又高き石臺の上に白蠟石を以て彫刻したる肖像あり是則大統領の室なり門戸の製我佛堂の如く大なる二枚の開き戸を設く内に入れハ二十間四面計の壯麗な

る室あり又其室を過て一室に至り長さ二十四五間巾五間半計の室あり此所に従者悉く休憩す正面に美麗なる滿開の花木を土器に植たり此前面に室あり諸公は其室にて休憩し玉ふ左方に廣き室あり是則應接所なり暫くありて諸公其席に至り給ふ我等の居所と十二三間計隔てり此室中大棟梁ボカナを始め男女數十人其内官服を着し帶劔をなしたる士官十四五人計列せり三公大統領と握手の禮をなし給ふ我通詞ハ三公の右傍にありて應答を辨せりボカナ長大にして惣白髪なり容貌ハ自ら威儀あり年齢六十餘飾りなき常服也國書の函ハ成瀬公携へ給ふ應接畢て休憩所に至り玉ひ又應接所に至り大統領に謁し各自禮を述べ終りて再休息所に至り玉ふ事終て大統領従者の休息なす所の室を過て我室に至る諸公暫く休息し給ひ車に乘し歸館し給ふ行路見物の男女群をなせり大統領の家屋の美麗なる事ハ目を驚せりと雖も周圍ハ僅に四五丁四面其内家屋ハ四分の一に過す又衛士武備なく唯造營異なるのみにして疑へ

り又信すへし

同廿九日陰幕府より大統領への御贈物如左

太刀 二振 馬具 一具

大和緞子「マンマク」二張 翠簾屏風 五双

蒔繪書棚 一 大和錦 二十卷

蒔繪硯箱 一 同料紙箱 一

掛物 五幅 以上

同晦日晴今日晝後旅館の東南四町計隔て、出火あり我輩屋上に登り眼下に見る許多の消防の器械を車に載せ馬にひかせり其器械ストムワートルホンブ蒸氣噴水器梯子齋口等也出火場所格別混雜の體なく消防人の外妄行を禁と云へり且煉瓦石製なれハ類焼の患なく譬へハ竈中の焚火の如し故に人皆常を變せず須叟にして鎮火せり

四月朔日晴今日迄旅館にむなしく屈居なせしか某公の仁惠ニ因て遊行の

道開け衆皆快然として喜悅せり午後二人の嚮道を得て同行廿餘人西北の方十三四丁計の所ニ至る街路ハ散沉思斯哥に均しく三條の道を設く中央の車馬道には丸き小石を敷けり西北の方には商店稀に士官の家屋多く總て造築ハ甚壯麗也周圍ニ樹木を植へ稠密に櫛比す爰ニ一箇の廣大なる樹園あり周圍に鐵籬を植へ中に高く石を疊み上げて上に銅造の騎馬人像あり是則ゼテラール官ワシントン人の肖像也と此所を去五六丁又騎馬の人像あり是又往昔獨立せんと英國と戦争せし時屢敵の堅陣を敗り最功績あるジャクソン人の肖像也と又西に向ひ行事七丁野外に出るに地高く周圍に廣く圍ひたる別莊の如き有嚮人我輩を誘て入るに南面の庭前に雅なる圓形の小亭ありて周圍に蔓草を植て日光を遮らしむ須叟休息せしめ氷水を與ふ此所市街を滿目に眺望し眼下の河流に長橋を架す其長サ十五丁と云景光明媚なる云盡し難し此橋を架する奇巧ハ最驚に絶たり去て行事六七丁二箇の大家屋あり之を過るに石炭瓦

斯を製する所也二丁計隔て、飯櫃を伏せたる如くの形にして高貳丈餘經八九間計鐵板を以て製したる者あり中に水を滿是則前の瓦斯製所より鐵管を以此所ニ護送し此中に貯ふと云是よりして普く街中に枝管を附着して毎家の燈火に供す故を以油燈を用ゆるものなし道路の左右人路と車路の間に青楓を植へ夏日は日光を遮り暑氣を避しめ此楓の汁液を取て砂糖を製す四月八月に至の間其幹に穴を穿ち汁液を漏出せしめ是を器に受け製すといふ南方に當り高く直立したるものあり華盛頓の供養塔なりと凡八九丈もあらんか白蠟石を以て正角に高く築疊せしもの也夕陽旅館に歸る

同二日晴今日午時要用の事あり米人二人と細川藩木村子と四人相共に同車しデビヤール海軍製造所に至る船舶製造より船具一切及び煩礮彈丸の類を製造せり數ヶ所ニ蒸氣機關を設けたり其奇妙術枚舉成し難し要用務終りて又車行し薄暮歸館す夜中雷鳴降雨

同三日晴今日四ツ半時三公を始め諸君五六人ミニストル事務館舎に光駕あり衣服ハ常服にて羽織小袴を着し玉ふ今日ミニストル館舎に於て定約取替せありと云余從行せず故に其結構を知らず午時歸館し給ふ

同四日今日晝後より同行四人にて東北の方を遊行す爰に合衆國第一の高閣ありカピートル義事閣其造營極て美麗也平地より抽つる二十七間餘長五十八間悉く白蠟石鑄鐵を以て造築せり亭々として街中に突出す前面の戸口に白蠟石の高柱十二あり戸内に入て是を見る數百の官廳有り室中金を鑲め蠟石十疊位一枚石或ハ八疊位一枚の硝子板を以壁となせり螺轉狀に廻曲し樓上に登り見るに廣濶なる圓堂あり凡四百疊もあらんか其正面に十四五疊鋪位の高き座席あり後面次第に高く且ツ數百の弓狀なる長き腰掛を設く此處一柱をも用ひす天井ハ卵を寸斷したる如くの形に硝子板を以て張れり大議ある時は國中の官吏を此堂に會集せしむると云又螺旋して頂上に登り是を見れハ普く花盛頓の街中目

下に見ゆ河流ハ斜に帯の如く景色盡く如く明媚なり此中樓より以上ハ
鑄鐵の板柱と接着して造築したる者なり此議事閣今を去るヲ九年前火
災に罹りて焼失し記録書籍數萬部焼失せるを以て火災を避るか爲に如此
く木材を用ひず鐵石を以て造築なせしと云へり其費計萬ドルラールと
也此官廳より普く合衆國の政令を施布す是の閣を以て合衆國花麗第一
なりとす其壯麗奇巧實に目を驚すに堪たり此室下に蒸氣の機關を備へ
普く室中に夏ハ冷風を送り冬は暖氣を送るの類實に至らざる所なし門
戸の左右に白蠟石を以彫刻したる人像有り右方にある處の像はイスブ
アニー名國のコロンヒス名あり此人今を去る事三百餘載西方に島嶼ある
事を察し國王の命令を受けて西方に航すと雖も終に求め得ずして歸來し
又再航せん事を請と雖も費用多きを以之を許さずコロンヒス頻りに強
訴して終に許を受此國を發見せり自是後西洋人各國競ひ來りて土地を
選んで來住し今日に至てハ人口數千萬を増加す往昔此地土人と云へる

ハ皆黒種の愚盲人なりしと白種人ハ皆西洋人種なり當今に至りてハ十
分の八は白種人也始米國を發見したる故を以コロンヒスを米國に於て
は尊敬せり左の方の人像は余之を知らずカヒツールを出て市店を見物
す路傍に大なる鐵造の迦納有米人に問へハ四百斤と答ふ長さ二丈五尺
計假に木臺に載せたり炮臺に備ふならんか予竊に恐る此炮臺重量なる
を以て縦ひ車の製巧便なりと雖も自在に左右前後なし難からん疑くハ
試に製造し經驗せしものならんか夕刻歸館す

同五日陰今日旅館に屈居す爰に亞墨利加合衆國の來由を尋るに今を去る
八十年前は當今の合衆國は英國之を所領す本國の商船あり漢土産の茶
を販て土人の私するを禁して専ら利を貪り又新法を立て土人の茶を買
ふものより税を納めしむ土人苛刻に堪へず相議して敢て公商の茶を買
す因て公商むなく茶を積置事二三年を曆て香味變失し悉く廢物とな
れり英王大に怒りて兵を起し暴掠をなす國人其暴虐にたへず十三部落

の耆老衆議して密に約してフルトルヒヤ府に於て花盛頓を推し尊んで大元帥となし英國に叛けり英國怒て數十艘の軍艦を遣り相戦ふ事六七年佛蘭斯伊斯把尼亞援兵を出して海陸より大に英兵を撃ちサラントガ名^地と云處にて大勝利を得たり英國敵すへからざるを知り遂に長臣を遣し和議を結んで兵を止む是より始て獨立す而してニウヨロク及ポストンの北湖水を境界とし北地を英領とし南を合衆國領とす國人相議して遂に花盛頓を推尊んでブレシテントと爲しポストンマキの河上に一の都府を發き普く政令を布施せり又其徳行を讃して直に都府の名とし且其恩澤を後世不朽に示すか爲に前に擧る如く合衆國各部落に肖像を銅石の類を以製すと云又每家硝子額となして室内に掛て朝夕拜禮して於今擧國民皆國の父と唱へて尊親す扱ワシントン在位四年にして位を他人に譲り尋常の人となれり是共和政治の根元にして於今大概ブレシテント在位四年を期とし銜笛衆議を以て其人を擢舉し職を譲れりと云然し

時としてハ六七年来に及ふも有り也

同六日晴此花盛頓の都府はポインマキ川上より行程百二十餘里の間大河通し船舶直に往來して便利なりと云とも本繁榮の地ならざるを以て府中を遊行するに官吏の家多く賣店少し此都府の人口七萬人餘合衆國の人口の總計二千五百五十九萬二千三百七十五人と云土地肥沃物産豐饒且金銀多く民人産業なし易きを以諸州より轉移する者十年間に凡五十萬餘増倍すと云但十年毎に人口を總計すと云

同七日朝晴夕雨午後より東南を遊行すバテントウルと云屋に至る市中を離るゝ事六七町周圍に廣き園あり樹木青々たり我國を出て始て松木を見る梅竹ハ未之を不見此家室中普く世界上の奇禽獸魚具武器衣服陶器及其他種々の珍物を藏む國人他州に至り珍物を得る毎に此所に納むといふ余輩未曾見の物十にして八九なり我國産物類亦一局中に藏めり塗物陶器刀劍鎗長刀絹布の類及ひ草履下駄草鞋足袋等也是ハコモートル

ペロリ始て我邦に來りし時持歸此所に納めしといへり獅子ハ我國の畫圖に大に異り顔甚長く頸より肩に至り長き毛あり長サ八九寸猿の種數十餘種あり其面各異なれり鹿又六七種あり手を廣げたる如きの角ある鹿あり大き馬の如し此地にて馬に代へ用ひて車に駕すと云去て東方に遊行せんと欲するに俄に天色闇々油然と雲を起し暴風雷鳴す急に促歩して歸館す

同八日朝晴夕陰今日日曜日旅館の男女庖厨に關係なき者皆悉く衣を替へ寺院に詣りて教導を受く此日曜日ハ七日目毎に循環せり總て此日に當りてハ門戸を鎖して各皆其産業を休廢し寺院に至り教化を受く大凡士農工商共佛を信せざるものなし其教化我邦釋氏の如く未來を解く而已ならず天道人道を主とし説法の段落の間には樂を奏して人氣を和せしめ人心を倦さらしむ

同九日晴今日仙臺藩玉虫氏と東方を遊行し病院に至り一見を請ふ一官醫

出て我輩を病室に誘ふ此病院尤高大三層樓にして男女左右に室を別てり室の廣狹一ならず大凡十疊より二十疊舖計に及び病人は臥床に臥して一室五人より七人八人に及ふ一二人の介抱人あり婦人の介抱ハ女僧の婦女にして服衣は常人に異なれり官醫我輩に悉く病人の其病む所を指し或は又蒙衣を脱せしめ病所を示す悉く皆難症なり貧人といへとも輕症なれハ必是に來て助療を受るにあらざるへし皆極て難治の症と見へたり又解剖せし人體骨骸及胎内の臟腑の類を部分してビンに入れ焼酎に浸せり又胎子をビンに入れたるあり又東北方に獄舎あり二層にして四圍上下皆大石を用ひて是を造築し鐵條窓となせり室中廣濶罪人に散歩をなさしめ男女室を異にす獄中教師を置き勸善懲惡の道を教へ善道に導くと云其深切感するに堪たり合衆國此刑法を定むる劇苛ならず又反叛人殺人強盜放火の者之を縊殺す其餘は入牢及び過料金以上三章也縊死を以て最重とする意は人は萬物の靈たり且天より受る所の人體

をして首體所を異にする如きはなさゝると也合衆國三十三部落中一載に死刑に所する者一百人計と云獄吏の室に休息す菓子を我輩に與へ音曲を弾して興せり去て南方に至る六七町にして一家あり此家六層樓にして横半町餘長四十間計衆人窓より我輩を招けり至て見るに書物を製造なす處なり蒸氣の機關を備へて以て其運轉するに隨ひ一婦人傍に有りて助けをなせハ自ら紙上に摺れ出て、重なりたり其他奇巧舉し難し六層悉く業を異にして成し易き業は婦人は是をなし難き事は男子之を司る男女雇人凡五百人計と云此家を出て東方に行事三四丁一男子に逢へり頻りに我輩を誘ひ己か家に歸り酒菓を出して饗す二三盃を傾け謝して去る夫より西方に向つて歸路に趣き一高閣あり之を尋るバテントールと答ふ見物を請ふ士官誘ふて室に入る是は國王の寶藏にして自國他國となく新に得たる器械の形模を納むと云數萬を以數ふへし其傍に我國御殿女中の服六七枚あり前に擧たる我國よりの御贈物亦ブレシテン

トの有と爲さすして此寶藏に納むと云薄暮歸館す

同十日晴今日旅館に屈居す爰に合衆國の兵制を聞く三十三部落中に旗頭はニウヨロク、ニコールソノンス、サンフランシスコの三部落の三ツなり而て全國の兵權を總括する處は華盛頓都府なり海陸騎歩炮兵を合したる總計二百七萬人餘全國砲臺の數六十八ヶ所軍政官廳七十箇所及器械工場軍器製造所二十五ヶ所全國の軍艦里尼^{號船}十一艘其内一艘は大煩百二十門其餘の十艘ハ七十四門を備ふ修補里尼軍艦一艘大煩五十四門第一等の弗列噶多軍艦十二艘は大煩各三十六門コルヘツト軍艦二十一艘其内十六艘ハ大炮二十門一艘は十八門四艘は十六門なりブリツキ軍艦四艘大煩各十門スクーテル軍艦二艘大煩各四門蒸氣軍艦四艘内一艘大煩六十門三艘ハ十六門同小軍艦七艘大煩各八門運送船五艘合して七十五艘煩の總計二千零三十九門船將八十一人號令官百十六人ロヒテナント官三百四十員測量官二十員醫師百十七員勸官九十四員法卿官二

十員教師其外十二員隊長及從屬官五百九十七員外國諸州へ出す所のミ
ニストル、コンシユル及屬掾の總計三百餘人と云へり

同十一日曇夕雨降合衆國中に官より建る所の學校總計八萬零九百九十一
箇所教師總計九萬二千員生徒總計三百三十五萬四千七百七十三員諸學校
の書籍四百六十三萬六千四百一十一部なりと云男女入學七歳より十七歳
を期とし其人材を見て貴賤の職につき或ハ商或ハ農となす女兒も讀書
より縫衣刺繡洗濯等一切女工の事を教ゆ學校教授の概畧ハ天文地理政
事軍務航海測量造船器械の製練工作醫術書畫農耕及諸の造築より日用
齊家飲食衣服通商等に至る迄學科あらざるはなし各其材に應じて其好
む所に從ひ是を學ぶ政事は封建にあらず又郡縣にもあらず一種の政事
を建てり部落毎に總督官議政官等を備へ事あるときは郷黨の耆老を集
會し俱ニ事を議し衆論に從ふと云諸部落を總督し政令を發する是を大
統領と云一年俸録二萬五千トルラール服衣飲食は猶庶人に異なるなし
云

大統領在職中ニ副統領を豫め定む其俸祿は五千トルラールと云へり諸
吏を撰むも亦部落中衆議して擢舉せり故に各其任に當らざるものなし
其選舉は貴賤の別なし當時のプレシデンド、ボカノンと云へる人はペロ
リ始て我邦に來りし時副將となりて來りし人なりと云今年期滿てりと
云

同十二日晴今日四ツ時前より旅館の西北方へ一人同行を得遊行す十六七
町計にして橋を渡り又市中あり尙行事七八丁一家あり傳信機テレグラフを諸方に
通したり往て其機關を見るに其概略譬へは江戸より大坂へ其通せん
と欲する處に銅線を引き木材を十四五間置に立連ね四間計高さの所に銅
線をかく其銅線の端にガルハニを仕懸く其ガルハニと云へるは銅板と
亞鉛の板とを一枚置に數十枚并へ銅線二條の端を一ツは銅板に接着し
一ツは亞鉛板に接着す而て其板を硝石精綠礬精と水とを合し器に入れ
其汁中に銅亞鉛板を入れは忽ちエレキテルの氣を發して常に銅線にエ

レキテルの氣満てり然して彼文字廿六字の符兆を以て豫め約束を定め譬へは●一點はイ●●二點はロ●●●三點はハ●●●斯の如くなるはホと云如くに部分して其意を通す此他報告の器械奇巧は筆力の及ぶ處にあらず實に驚嘆するに堪へたりたとひ幾百里を隔つと雖も瞬間に報答をなす我輩今此所に来りたる事を戯にニウヨロクと云へる所に通す距離百五十里餘の間を凡三十餘脈の時間にして應答あれり日ならずして此地に来るを待てりと云嘗て聞く北亞墨利加の北地を英國是を領し本國より二千五百里餘の海底にテレグラフを通し音信を通すと云へり合衆國中の電信機線を總計するに凡四萬里蒸氣車の鐵路を直線したる總計一萬九千四百四十一里半と云薄暮歸館す

同十三日晴此華盛頓都府には砦壘城郭なく唯海口と海岸に炮臺を備ふ而已にして四海を以家とするの意を民人に示す而已風俗溫厚篤實人に交るに信義あり僞りなく市店に價を言さるか如くかと思はる合衆國に於

る最此華盛頓諸部落に超過せりと云

同十四日今日午時より加藩佐野氏とテヒヤール海軍操練所に至りゼテラール

帥官に逢へり彼兵制を聞くに和蘭の兵制と大同小異ある而已彼國にて

は歩兵銃は悉く是迄用ひし銃を廢しミニー銃に改革す此ミニー銃といへるは銃の塘中に三條の溝あり衝底より炮門に至り其溝一球を爲す彈は椎實狀をなし中點の腹部に横に三條の細少なる溝あり後部の側面に



圖の如き窪みありて彈火藥の壓力にて後部外面に開き塘中密合し塘中の三條の溝を一球し飛行し且彈に三條の横溝あるを以て空氣其溝中に抵抗するを以て彈丸轉廻する事なく尖狀なる方前面に向飛行し遠距離に達し能く堅實なる物を貫き且能命中を得る近世に至ては小銃に倣ひ大炮又塘中に溝條を鑽削す彈丸の形も小異ありと雖とも其理一にして實彈柘榴彈の二種あり實彈は鉛を用ひ柘榴彈は鐵を以て製し中心に鉛を以て帶となす其彈丸六十町餘に達す此所に於て十二寸半のホウ

トホウイツスル炮の塘中に溝條鑽削する新製砲あり我幕府に獻すと云
且我皇國ニテハ未火繩炮を用るを以不利なる事を説ひて速に改革すへ
しとそ今日本は魯西亞オーストリアと隣せり彼嘗蠶食せんと欲する意あり豫其備な
くんはあらずといへり夫より器械の製造を見るに皆奇巧なり薄暮に歸
館せり

同十五日晴昨夜二丁計東方に出火あり速に鎮火す旅館の内に廣き佛堂あ
りて先夜より躍り或は見せものを爲し日本人を饗し且合衆國中遠境の
人日本人を見物に来るものありて群をなす

同十六日朝晴晡時より雷鳴雹降る其形七八分の彈丸に均し夜中諸國名所
圖書の大卷物を見せしむ音曲を奏して其畫圖を轉回し一人其傍に有り
長竿を以て之を指示すに山河の景光人物等眞のことく或は洋中の航船
颯風雷鳴電光に遇へる形勢を爲すに其奇巧人目を驚すに堪たり大統領
ボカナも獨歩にて來り衆人と均しく見物す素よりフレシテンドの來る

事は晝より其沙汰ありて少しく美なる腰掛を設く而して其來るに及て
別に禮節の設なく衆と共に並踞して談話を爲す未終に至らすして燈火
を用ひす獨歩して歸る

同十七日晴午時より不用の荷物をチビヤールに送りニウヨロクに廻せり
フレシテンドより日本人に合衆國三十三部落を遊覽せん事を勸めて若
之を欲せば直に回文を以て通達して聊差支不自由なからしめんと雖も
全權方固辭し玉へり

同十八日晴異事なし

同十九日朝晴夜中雨降明日華盛頓を發してポルトモンに至を以て男女群
集し來り別を惜む者終日絶へす且諸の菓物を持來る其情實を察するに
人となり正直にして更に僞り疑ふ心なき乎フレシテントより全權小栗
公初め諸君に諸の物品を贈れり就中回り一尺厚サ五歩許の金板ニフレ
シテントボカナの像を鑄造し裏に夫人の像を鑄造したるを親見公村桓

公小栗公の三公に呈し同形の銀製を以上の御役人方に贈り以下の御役人に銅製を贈れり

同廿日晴早朝より士官等多く來りて別を惜み流涕に及へるものもあり五ツ半時旅館を發して乗車に乗り東方八丁計にして蒸氣車に乗移る此所氣車所なり車の製方器械バナマにて乗るに均し華盛頓の士官數人相共に五車を連結して東北を指して走行す行路左右を眺望するに平地にして丘陵なく孤山小峰をも見す廣大悠遠の畑ありて多く小麥を種ゆ或は多少の林叢草木繁茂せり農家は田畠に比すれば甚稀にして一家の受る所定て廣からんか然して洋人ハ人力を勞せず耕すの器械を以てするならん又所々に牛馬の牧あり行程二十里半四ツ半時ホルトモンの街口に着し又乗車に乗移り四丁計にして大寺院ありて休憩す見物の男女群集す寺中諸の菓物冰及び水を出せり須之して又車に乗る警固の騎兵七十人計歩兵數千人野戰炮八丁を備一挺毎に六馬之を引き又每砲火藥車と砲

車とを接着せり其他出火消防の具階子ワートルポンプ噴水諸の器具を馬に牽せ百餘人の士卒之を護す各頭に甲を頂き其形裝甚美也此都府の街屋の高大華麗と人民の繁昌なるは華盛頓に三倍すへく見物の男女群をなし稍々車路を通する而已市中を縦横に誘導し八ツ半時旅館に着す此旅館は六層樓にして華盛頓の旅館に比すれハ劣れりと雖も美麗を盡せり晡時旅館の前に空曠の地ありて銃卒百六十人を二隊となし二列に立て格列發放一齊發放二列發放をなし見せしむ能習熟して規則齊整たり終る失火消防法を爲す七隊の卒ありて先蒸氣仕掛のポンプを土中の水道に皮の筒を螺を以水口に密接し蒸氣沸騰力を以て其水を噴飛せしむ其勢盛んにして五六丈の高きに達し能自由に兩側の屋上に及せり又階子を屋上に懸け消防の形勢を爲す須臾にして彼噴飛の水街巷中に充滿して川の如く流る暮後花火を見せしむ口經壹貫目許の短銃二門を立て均しく發射し空中に破裂して種々の奇なる火光を現はし或は流星車火

等の類あり終りに火光を以て彼文字を現はす其語を聞くに日本の使節能來ると書せりと云初更後各我室に入るに二從臣短刀を室に残して彼花火を見しに其間に失亡して不見大に探索すれとも不得之を彼役人に告て探索を請へとも不得後日出を期して送らんと云爰に此部落の經緯を尋るに北緯三十九度十七分西經七十六度三十六分此ホルトモンと云へるは合衆國大部落の一にして街巷縱横に相交り家屋櫛比人烟稠密其造築尤廣大也人口二十萬餘にて許多の産物を生すと云又水勢の便に由り多く水力を用ひて大穀車及び工作の諸車を運動し人力を助けたる物あり傳信機蒸氣車瓦斯管導水管其他備らざるものなく百貨の交易大に融通し商賣の利最大にして稱して合衆國中の寶街と云旅館の前に高さ二十七間の白蠟石を以て築造したる臺あり上に華盛頓の肖像を置く高さ二間餘也是則華盛頓の高徳を尊崇し後世に其恩澤を示と云

同廿一日晴朝五時半時ホルトモン旅館を出て車に乗り四五丁にして蒸氣

車に乗移り東北に走行してフルテルヒヤに行く行路中に三河あり二河は橋上に鐵路を敷き車を通す而して一ツハ巾三丁計一は五丁計也後の一河は巾二十町計にして岸に長さ四十餘間巾十間計蒸氣船を備へ甲板上に六條の鐵線を敷き三箇の蒸氣車を乗せ彼岸に渡せり此河をソウスケハナと云上流大船を通せり思ふに河源遠からんか總て蒸氣車の鐵路に沿ふて二三條の傳信機を引く此行路亦然かせり途傍の畑牧野林藪總て青々繁茂せり二ツの市街を経たり戸數三百計ならんと思わる八ツ半時フルテルヒヤの市街に着しホルトモンより行程五十里又二馬車に乗行事二里計にして旅館に着す途上警衛騎隊七十騎歩隊二千五百人前後左右を警護す此都府はホルトモンよりも又盛榮なるを以て見物之男女又倍せり乗車休すれば周圍に來り衛卒をくゝりて名札を請或は握手和親を結んとして殆困せり

同廿二日晴此旅館は六層樓にして周圍方壹丁計に及ふ可く旅客の爲に設

くる室七百余に及ぶ奴婢八百人其他結構美麗等總々華盛頓ボルトモンに類せり終日見物の男女群集し來る就中士官多く妻子を携へ來れり

同廿三日晴午後二馬車に乗り西北の方に行一里計にして蒸氣を以鐵器を製造所又蒸氣車の器械製造所及河水を引き其水勢を以諸の器械を製するを見る此所を隨意に散歩せん事を同行五六輩と相議し乗車を辭し一二町を歩行せしに見物の男女群集し來りて一步も進み難く唯さへ炎暑なるに多人數に圍まれて炎熱難堪又相議して車に乗り晡時旅館に歸る

同廿四日無事

同廿五日晴午後東方を遊行す運上所あり旅館を去ること四丁はかりなり八層樓にして造築の花飾壯麗なる事街中大一に屬すへく官吏出て我輩を誘導して普く見物なさしむ人物畫を鐵板に彫りたるを數工人是を蒸氣仕掛を以て紙上に寫し或は藥品を粉末にするより丸に成すに至る迄盡く蒸氣機を用ゆ功能書二本を予に與ふ一は漢文を以て疏記し一ツは横文字を以て書せ

り官醫に漢學を爲す者あり蓋其譯書ならんか今他行して面晤を得ず階の最上に丸く直立したる高さ二丈餘經七尺許の螺旋の如く回歩の梯を登り頂上より街市中を偏く縦觀す頂上より之を目算すれば凡十二三丈の高さならん乎此を去又他を彷徨なし七時半時旅館に歸る

同廿六日同行三人東北に遊行す一大家あり頻に我輩に來れと云往きて之を見れば則綿布を職業と爲す者也此家六層樓にして數百の工人一層樓毎に業を異にす糸を紡績する如きは二人傍に在りて三百餘條を司とる織機の如きは一人二箇の機械器を司る其他至簡至便の機器を以する枚舉すへからず實に一家の數百人數千萬人の力に應すへきか此所を去又一の士官に遇へり我輩を誘ひ一酒店に至る又一士官あり五六輩の婦人を携へ來る而して種品の酒を勸む其士官風船の圖畫を予に與へり予曾て此地に風船の演習ある事を聞けり依て是を見ん事を請ふに許諾して相共に二馬車に乗り頻に馬を西南に馳せ行程一里半計にして市中を離

れて四方悉く畑也又一里計にして高大家あり是則石炭瓦斯を製する所にして風船演習所へ米國と我國との旗を立つ乗車百餘數百人群集せり傍に高く板を以て新に席を設く今日全權方始諸君の光臨を招待する爲に此の如く設けたるならん然とも遂に來り玉はさりき後より二馬車七八輛を連ね來る是を見るに我以下の士官三人許從者八九人來り各其席に就余も又其傍に就き風船二艘に乗るを見る其概略を舉れば鶏卵形の棉布囊をゴム之を塗り高さ四間巾二間半許其上七分を麻苧の綱を以覆ひ其端に七八條の繩を下し釣るに柳箇コウリの如く木枝を編ミたる者を以せり其空腹中ニ瓦斯を滿て空上に騰上せしむ始め瓦斯を滿て騰上せん勢を繩を以て引留め置人を乗せしめて漸整を待ち繩を解放せり且其舟の左右に日本の旗と米國の旗を立たり而して其乗込ハ士官壹人宛也繩を解てより一瞬の間に三丁許の高きに至り棉布に砂を入たるを落せり夫より風に任て東北に馳去り須臾にして見るへからす今より一時の間にニウヨロクに至ると云行程百餘里也と云夫より瓦斯を

製するを見る其製法筆力の及ぶ所にあらず略之今日全權方を始め諸君光臨なきを以珍肴美酒の設空しくなれとも却て我輩の幸となり大に饗應に逢へり七時此地を去り相共に南に車行して壯麗の一家に過れり此間八丁許也地高く四方を眺望するに宜しく景光畫の如し直下に方位七丁許の圓形の馬場あり砂地にして馬に車を引くを習はす所にして四馬の演習するを見たり夫より又東北に車行して歸路に向へり九車相競ふて馳せ頗愉快たり又二丁計にして瓦斯或は水を通するに用ゆる大小の鐵管を製する所に至る是を見るに皆蒸氣の仕掛を以して其奇巧簡便なるハ書記しかたし日暮館に歸り厚く士官に謝し別る

同廿七日某生と出行す劇場に至るに舞臺の結構粗我國にしとしく見物の棧舗は大に異也女役者數人出て予輩に名札を請ひ又其名札を與へたり且予に其寫眞鏡を與ふ須之して去て一寺院に過僧二人出て佛殿に誘ひ酒水を勸めて對話須臾にして去佛殿の四方壁上に許多の佛像を懸けた

り此より行五六丁にして街吏に遇へり其街吏たるは胸に銀製の印あるを以て知る頻に誘て家に至る此所は市會所と見へたり數十人の吏會集せり其内ニ二人之首長有て我輩を誘ひ一酒店に過り菓子酒を進めて一人は去り一人は又酒店の翁と共に二車を出し一車に壹人ツ、を乗らしむ一車は自ら御し一車は酒店の翁を御となし北に馳す二十丁にして野外に出て尙馳行二十丁餘に大河あり巾凡五十間に橋を架け鐵を鋪けり兩岸巖窟流水澄んで藍の如く沿岸數戸の酒店あり造營奇麗にして納涼の爲に設くと也每家男女數十人宴を開けり予輩三箇の酒店に伴れて過るに遊客の男女群り來りて握手の禮をなし名札を取り與ふ種品の生花の束たるを與ふ半は愉快たりといへとも日西に没せんとして頻に歸るを促せとも士官等歸心なきを以て嘗て他行暮六ツ時を以其限とするを述へて漸發車し鞭を上げ馳驅して日暮歸館す

此府は有名な都會港にして東西に川あり本街其中にあり東北はテレン

トン新約に通し西北はハスケハナ、コロムピヤに通し西南はポルトモン、リトゲンクに通すると也故に又許多の小鐵路を岐分し諸部落の大鐵路と繋ぎ縦横錯絡遍く四方に通す凡東西二里南北一里半北緯三十九度五十七分九秒西經七十五度十分三十七秒中度の溫度ハ五十度八分とし冬は三十度一分夏は七十一度四分とす人口六十萬人と云街巷甚整齊正しく井字をなし區劃正角東西南北一羅列し家屋の造營最高大壯麗にして途上亦清潔汚穢を見ハさす固より三條の路は諸の都府に同しと云とも中央少しく高く左右兩側稍々低下せり此故に糞汚不潔の物は降雨毎に洗ひ流して河に及せり西方にコイケル河あり大水車二箇を以て汲上げ大鐵管に送り遍く街の地中を導引し許多の人家の用に供す故に街中一の井池あるを見ず英の幕下を離れ不羈獨立せし時會議して國中の民庶を呼集め高閣上より諭文を讀ミ聽せ大義を衆人に示せし處なり國人今に至る此閣を尊敬し華盛頓の肖像を置けり大小の學校は諸州の部落よ

りも多くして風俗は仁惠篤實ならんと思わる有名の學者多く教化に至
ては世界上の諸都府に勝れりとそ物産は大概ホルトモンに同し

同廿八日晴四ツ時フルデルヒヤを發し東方に車行する十二町計大河あり
長サ二十六七間計河蒸氣船に乗り之を渡り直に蒸氣車に乗り岸に沿ふ
て走行數里にして一小河あり橋をかけ鐵を鋪けり此行路は總て田畑多
く林叢稀なり此橋を越れハ市街あり戸數三百計もあらんか見物群集し
車中に種々の生花を投納す又路傍に李木數十株を見る九ツ時過アンボ
ウ海岸に着す距程既ニ我六十三里此岸に新約より迎へる川蒸氣船あり
全權を始め七十六人且新約より士官數十人フルデルヒヤより送來る者
數十人及華盛頓より護送せし醫三人蘭通詞一人等同しく乗して直に船
を發し丑寅に向ひ航す船中の花飾壯麗養盤を飾るに生花を以てし美酒
佳肴を以て饗せり八ツ時過新約の岸に着すアンボウより此地迄七十七
里東南華盛頓を去る百五十里餘計と云港前多少の島嶼連簇して能太洋

の颶風を防ぐ可か船舶を泊するに良便ならん港内の礮臺今見る處は二
ヶ所にして泊船數百艘帆檣林立繁榮の港ならんと思はる陸には騎歩砲
の三兵一萬人計野戰砲十二門を備へ毎炮火藥車を備へて警護し號令官
騎馬より令を下し祝砲十二發を爲す英佛蘭船よりも旗を上げ禮を爲す
上陸すれば其衛兵車の前後を護し二十町計にして空曠の地あり乗車を
止め三兵皆縱隊を編制なし乗車に先立行く其運動歩法齊整嚴密なりコ
ンバクニ八十人毎に歩卒の衣服冠帽及合印を異にし其形裝美麗也隊列
中ニ一婦人あり脚半を着して衣服は男子に類して縞海氣の如き縮を幅
廣にたすきとなす是を聞に往昔英國と接戰の時婦人如斯姿をなし兵隊
中に加りし例なりとそ今に於て然せりと也又其地より六七丁にして旅
館に着す此館の名をメットポリテンホーテールと云營構高大を極めて
七層樓也又九層にも及へり日本人の室は盡く五層目にして室の入口に
晝夜二人の番卒を置無用のものハ妄に入るゝ事を許さず美なる數百の

窓毎に我國の旗と米國の旗とを二本宛建たり此旗章は長さ二尺巾一尺三寸計なり夜中は毎窓二箇の燈火を點して白晝の如し

同廿九日晴今朝より館中數百の男女群集し喧し此館舎正角にして方一丁餘館の正中に二箇の庭園あり奇樹異草又小池を設けト、我松前に多し鼈と云獸魚なり金魚の類滿て躍れり家屋中に三箇の劇場あり一家中大室五百小室數百千の數を知らず每室瓦斯管及ひ沸湯冷水蒸氣鐵管縱橫錯絡悉く備らざるものなく其管の長さを合せて直伸し是を算すれば我里方二里六丁餘に及ふと云室内に懸ける所の大鏡五百五十面價三萬七千五百ル午窓櫺の硝子價幾萬と云事を知らず此地に至る迄合衆國の客舎に宿すと云へとも此旅館に過るものあらず西洋諸州に於るも亦最壯麗の部中に屬すと云夜に入劇場に招かれ往て見るに二箇は男子の役にて一箇は男女相混し女役は女子勤め男の役を男子勤め音曲は琵琶の如きもの長曲尺余に及ふへく馬尾の弓を以て之を擗り美妙の音をなす尺八の類ラツバ或は四ツ竹の如き音曲を用ゆ其爲す

所は言語通せざるを以て解し難しと云とも喜怒哀樂の情態ハ大凡見て之を知る其概略を擧れば一老父三女あり出づ景色寒きか如し其末女頻り山中にある美花を老父に請に老父素より其末女を愛する切なるに依て請に應じて一僕を従へ我家を出て山中に行と我國の芝居の如く舞臺替り忽ち山中の路となり廢寺の如き所に至るに二人甚寒き様子をなす然るに目前に酒肴突出す二人大に喜んで是を飲食し終て竊に籬橋に滿開する美花を盗み取ると忽ち總身に熊皮を纏へる大男子木杖を突き出て之を捕へ暫く問答ありて罪を謝する體にして漸く許を受け逃れて我家に歸り始終の物語をなし一花を末女に與ふ二女又之を末女に請とも與へす再盜ミ得ん事を老夫に謀り進む老夫末女一僕を従へ又彼の山中に至り花を盗めり又先の大男子出て、一老一僕を打擲して追退けて一女を奪へり女は色々の仕形あり遁れ歸らんとするに得ず大男子は其女に懸想なすの體をなす女は彼に従へる體にて隙を伺ひ遁れ去らんと

するに其内日暮て夜中となり彼男女に寢床を與へて又舞臺替りて老父の内室となる是は捕れたる女の夢中の事なるへく老父一僕家に歸り末女を奪れたるを悲歎する所に突然として末女歸り來り老僕大ニ悦ふ體也又舞臺替ると女獨臥して夢の覺たる様にして大に悲難せり此所ニて一狂言終り暫く休す其間ニ見物人不殘客舍中の酒店に至り適意に飲食をなす夫より又後狂言を始む前の狂曲と異也婦人拾四人美服を着し替々出て躍をなす五ツ時過終る其美麗は記し難し見物所は三段となし前面卑く順次に後面高し我芝居の如くコンザツならず至て靜也賞る時は衆人足踏をなし或ハ生花の束ねたるを舞臺に投與ふ

同三十日晴此新約の都府は左右に大河あり帶を伸たるか如き島にして亞墨利加全州に於て第一の繁富且人民蕃庶ホトの大都會にして通商の大輻湊場たる事は全世界上右に出るもの少しと也此市街を十一に區分すと云合して人口を數ふれハ八十萬人河を隔て南にロング島市街あり北にマ

ナツタン島市街あり此三島の市街人口を合せは一百万餘にも至るへし北緯四十度四十分四十秒西徑七十四度一分一秒寒暖計ハ中和の溫度五十一度六分夏ハ七十度二分冬三十度一分也此府の兩河冬に至てハ氷上を人馬通行し至て嚴寒也

五月朔日未だ屈居し遊行を得ず甚徒然なり家室中を徊徘徊し突然として日を送る明日より遊覽を免すと云此夜も先夜見る所の演戲を見るに其一是男子あり顔手に黒く墨を塗りて我ヲドケ躍の如きを爲す其歌謠中多くイヤバンと云又我國の服を僞せしものと見へて長き怪しきものを着す其仕形を察するにペロリ始て日本に來り應説をなすの體ならんか一は我國の淨溜理の如きものを聞く

同二日朝雨午後晴今日八ツ時より同行四五輩にて南方を遊覽す人家は數層の高樓櫛比し正しく井字をなし三條路にして廣きハ十六七間挟きは八間を下らす處々に逍遙園あり四方に鐵籬を設け數百の樹木を植て日

光を遮り又廣き泉水を掘り鯉金魚を放てり平常は街中の逍遙場となし事ある時は礮を設け兵を屯する要所とすと云爰ニ一ツの學館に至れり階を六層に設く生徒は五六歳より廿歳に及ぶ少長席をわかち男女階を異にす頂上の階上座席最も廣濶にして十二三歳以上の男女左右に席をわかち數百人腰掛に踞せり正面に高サ三尺八疊敷の高席あり十五六の男子交互出て講義をなす言語通せず何等の事を解説するを知らず終て後二人の小童又三十有餘の婦人壹人出て狂言をなす其情態を察するに二男子客屋に宿して其一婦人に艶書を送るに二ツなから許諾し時刻を期して相待の返書を送る二男子相知らずして互に誇つて返書を出すに同文同刻を期して遇はんとするを二男子怒て其婦をせむるを以て一段終となす其情態甚笑ふに堪たり總て彼か學館に於ける終日勉強をなさせず時として如斯狂言をなし或ハ又音曲を彈して其鬱屈を解き然して刻を限りて勉強すと云此館中の生徒千人に及ぶへし進退座立序を以

てし禮節嚴也夕陽旅館に歸る

同三日晴今日他行をなさず旅館の主人に兄弟五人あり各妻子有て皆一家中に室をなす伯兄は年齢五十計にして温厚徳實を以國中に聞ゆと云叔弟も亦兄の風習ありと也五年前英佛魯西亞と大にセバズテボルに於て戰ふ時米國の拔隊龍隊の號令官たりしと云自ら其時戰爭の事を咄せり今に於て尙隊長たりと云

同四日晴今朝五ツ半時より同行五人客舎の主に誘れ車行する事八丁にして大河あり長さ十四五間計の小蒸氣船を乗出し砲臺を一見し砲臺見物は予か宿志は置たり及ゼテラール元帥官の亭に誘ふとて行く事四五丁にして三層樓の船に老若男女千人餘乗れる船二艘を二艘の蒸氣船之を引てニウヨロク北邊の海上にボルに逢へり予か輩の船を頻りに呼て其船を近づく館主知る所の者數十人ありて船中より談話なして忽船を東北に浜り四里計行て船を右岸に着け上陸す此地岸より次第に高く登行する三丁程

一の高大家あり行て見るに是則瘖の學館也此時午時に近し蒸餅酒肉を飲食し終て一の廣席に至る正面廣サ十四五疊敷計の高席あり下は前卑く後面次第に高く數百の腰掛を設く教師の令に應して男女の生徒四百人來つて男女左右に分れて席に就く始に十二三才計の男女二人宛を招きて其高席に上りたる教師右手をとりて彼文字の數廿六の變化を五指を屈曲して四人に諭示す後壁に廣き石板を掛け白墨を以て文章を書く甚神速なる事口授するかとし終て後教師其文の誤りを示す又十七八の男女四人を招て五指を屈曲して四人に示す四人諾して各我意趣を書けり此文を聞くに今日日本人の此所に來る事を祝するの文也と云此四人書ける所の文を寫し歸りし者あり其次廿四五歳の一男子出つ教師其男子に五指を屈曲して鳥獸の名を示す其男子仕形を以其大小の形様を示せり教化を以て廢人と雖人倫の道鳥獸草木の名を知るに至る是則生民を棄さる仁政の至れる處乎と感するに餘あり八ッ時瘖二人十七八歳

の婦人二人を伴ひ再び船を發し河上に浜り行事二里計にして岸に着せは今朝出逢し處の衆男女上陸なし山中に圓居し盛宴を開きたり我輩も又上陸して是所に至るに菓子菓物を我輩に與ふ就中美婦人十四五人を撰んで同音に歌謠して我輩を興す爰に奇なるハ我兒戯に均しき有繩を樹木の枝より下け之に尻を懸け二人相對して相互に動搖させたり扱此集會を聞くに男女三千人は皆同門の學生にして一年に一度會集して逍遙逸遊せしもの也と云八ッ半時船に乗り歸婦人及瘖等を歸らしめて歸路に趣く船中彼瘖種々の手僞をなして興を添て或は笑ひ或は感せり又一里計左の方の山上に家屋見ゆ是則無告の鰥寡孤獨及び貧困の者を養育なす館と云總て瞽聾踊跛無用の廢人を集め教育して各其適宜の業を爲さしめ貧院ハ男女の兩館を設け工作紡績類各其適宜の業をなさしむと也薄暮歸岸し乗車を馳せて旅館に歸る今日の遊覽愉快を盡せりと云とも炮臺且ゼテラールに面會せざるに遺憾あり唯館主ハ花麗なるを縱

覽せしめんか爲に中途にして行く所を變したるなるへし

同五日晴四ツ時諸用あり海軍所に至るニウヨロク南河を隔てマナツメンにあり旅館より車行するヲ十三四丁計河岸に至れり河巾二十丁計也爰に往來の人馬を渡す爲に十五六間の蒸氣船二艘あり我等同行の四車共此一船に乘れり岸に着し又車行する事十丁海軍製造所に至るに高大なる家屋十戸計陸續せり每家悉く其所業を異にして諸の物品を製造す此を支配する士官の家を過く暫く休憩す我輩に酒菓を與ふ又此所を出て華盛頓より廻船する處の荷物を改め然して又出て日本人歸航するナヒヤクラ名船に乗り之を見るにスクルーフマシチにて烟管二個を設く船長サ五十七間幅八間にして新に日本人の室を造り今半は成れり傍にアスペンワルより花盛頓河口迄乗處のローノク船あり之をナヒヤクラ船に比すれば甚小也用務終て車行し歸る此地ハ日本人の珍らしき故に見物人多しと八ツ時旅館に歸る此ノニウヨロク都府の廣狹を考るに地形一定ならずと雖も長を

截短を補ハ大凡長さ三里幅一里半に及ふ可か日本人旅館の如き是を東都に比すれば日本橋通りと云か如く最榮の市街にして人行雲の如く車馬織るか如し終日車輪の音耳に轟き喧し

同七日晴爰に新約府中の寺院を尋るに凡二百五十此内宗旨數種ありと云總て街中の導水の事を聞に其法尤巧也源はコロトンと云湖水より運水機を設け普く街中の地下に埋み大鐵管に導き數十萬の家々に枝管を分けて是を取る日用飲食及ひ諸製作の用に供するのみならず九階十階の高樓迄自在に引て嘴口を螺轉すれば水忽逆上る又行人の飲料に供し所々の逍遙園に噴水機を設けるに至る實に奇巧と云へし而して費用又莫大也とそ

同八日晴此地港門より港内の海岸に備る所の礮臺八箇と云海軍製造所は合衆國中八箇の部落ありと云予の見る所はサンフラシスコ、ハシントン、ポルトモン、フルテラヒヤ及ニウヨロクの五箇也此地より百里隔て北方に

ホスセンと云都府あり至て繁盛の地にして新約の次と云此都府へ日本人の來るを待て莫大の貨幣を費し其設をなせりと云然るに歸館を急き辭して行さるを以て大に怒れると

同九日晴五ツ半時より館主に誘れ我輩五人東方に車行する十四五丁にして一の廣大なる家あり過りて是を見るに則諸藝術館也階を七層に設け毎層其學ふ所を異にして數百の生徒會集せり此家を出て更に西行して客舎を過て一大家あり前に種々の看板を出す是則諸國の珍物を集め人を待て之を見せしむるを以業となせしむるもの也往て是を見るに珍器或は人物又鳥獸魚貝の類に至る迄無量集めて遊觀に備ふ其一二を舉れハ奇童あり甫めて七歳にして身の丈五尺肩幅二尺五寸顔及手足皆準して肥大なり然れとも顔色は實に幼けなく最其歳に應す其母傍にあるを見るに尋常の人に異なる事なし又夫妻一男兒あり共に總て髮毛長く潔白也又一男子あり身の丈三尺に及ハす顔黑色恰も墨を塗るか如くにし

て猿に似たり音聲頭上か出るかことし米人は是を呼てハルフ、モンケンと云半は猿と云義也爰に又諸國の人物の肖像あり其中有名の佛蘭西國の帝ナポレヲンボナハル肖像を見るに丈け高く肥滿せり顔丸く赤色勇美なる男なり傍に南亞墨利加の人物あり丈壹丈に及ふ又傍に三尺位男あり何れの人と云を知らず獅子虎豹其他異獸奇禽枚舉し難く我國醫學館を想像せり此家を出て又車行する七丁計にして海濱に至り蒸氣通船に乗りニウヨロクの南河を東に浜る事十一里計にして岸に着し上陸す曾て旅館主翁の通せしを以て乎岸に車を備へり直に乘行二丁にして廣大なる家あり往て之を見るにインジンイに生するゴム木脂にて種々の器物を製す此ゴム米國に甚多く産して其用方多く至便の者也其製に因て或伸縮し或堅實の物器とも成れり今爰に製するは則器物にして是を製するに蒸氣の機械を以せり此ゴム黑色を帶ふ是に硫黃華を混化すれば柔脆となるを型に入れ蒸焼にして是を寒せは至て堅實となり磨けは光

澤を生して鼈甲の如し予にゴム製の櫛を與へり此家四階にして男女工人二百餘人に及ふへし此家を出て二丁計にして四層樓の壯麗なる一家あり周圍に廣く種々の草木を植へ地高く四方眺望するに宜しく其景光明媚也館主年齢五十歳妻ハ四十五六歳一男二女あり我輩を饗するに美酒佳肴を以てす須之して別を告げ河岸に至り通船を呼て其船に乗歸る英國の大船昨日ニウヨロクの北岸に着すると聞く歸路彼船を見んとて既に至らんとせしに歸館の時刻を計りて遂に行事を得す甚遺憾也七ツ半過岸に着し車行し薄暮旅館に歸る前に云英國の大船嘗て是を聞くに船の長百二十間巾十二間蒸氣機關を二箇に設く一はラット車^外一はスクリーフマシ子^掛螺仕なり世界上是に次くものなしと云へり

同十日晴早朝より雇人多く入込ミ種々の樹木を持來り庭前を飾りて其構甚壯麗也庖厨に於ても酒肉山をなせり其故を問に今宵日本人饗應の爲に市中の男女一萬人を集會せしめ躍をなすと也日暮より男女各美服を

着し婦人は頭上に種々の造花を以是を飾り香水を衣に注ぎ香氣芬馥として鼻を撲つ席を設けて全權方諸君を招し四箇の廣濶なる席に於て躍を始め傍の室に酒肉を設け交互飲食して不絶諷詠舞蹈して喧し日本人務て暫時其席に在りて各我室に入る然れとも聲音尙耳に滿ち眠を妨く八時に至つて終り稍々安寢するを得たり今宵の費を聞に四萬手^ド甸とサ^ンバン^ソ酒の名一のフラ^コ凡四合計^ラ八千本一本の料三手^ド甸と云旅館廣濶なりと雖も錐を立つるの間なし

同十一日晴今日旅館に届居す

同十二日晴明日愈此地を發しナヒヤクラ船に乘し歸航に趣くと同行舉て喜びあへり然し萬里の波濤を凌ぎ再ひ航し來らざるを思へは半は別離快からず四ツ時同行一人と遊行す我輩等明日此地發航を知れるか家毎に我輩をさし招き呼んで別離を惜む午後旅館に歸る

同十三日晴四ツ時別を告げ旅館を發車し行事十二三丁計海岸に至り蒸氣

の通船に乗す此船より七八丁東方に當つて英國六帆檣の大船碇泊せり是を見るに海中に一山突出したる如し英國の女帝此船に乗し亞墨利加北地にある處の英領を巡見すと云須之して船を發し行事十二三丁計にしてナヒヤクラ船に至り乗移る華盛頓フルテルヒヤ、ニウヨロクの士官數十人ナヒヤクラ船迄送り來り別を告げ涕泣し歸去せり其情態至て切なり八時新約の港を發し南方に向け航行す凡十里計港門に至る左方の岬に礮臺あり祝炮を發す港門を出て方位を東に向けて航す

六月朔日晴今朝四方を眺望するに山嶽峨々として危峯屏立し其高峻なるものは半腹に雲を帶ふ山皆巖石にして草木なし土地は赤色を帶ひ燒土の如し港門は西南の間に面し港内廣濶の灣となり颶風を避けるに宜し東北の陸地に人家僅に四十戸計北方の丘陵に葡萄牙の運上會所あり又山上には小なる砲臺を構へ港内に泊する所の船英國の軍艦三艘米國の商船一艘其他泊船四艘なり此島に來泊するは食料薪水石炭を載納せん

か爲なり此ポールランド島には石炭の外他物なく飲水ハ島民も是を他の島に求むと云是則樹木の乏きを以て也と大小の島嶼十四箇に碁布す悉く葡萄牙領也と云就中此ポールランドを首府とす北緯十四度四十五分より十七度十三分に至り西經ハ二十二度四十五分より二十五分に至る諸島の人口を總計するに六萬七千人也と云產物は米藍木綿烟草骨喜砂糖酒牛羊鷄豚を産す氣候は炎熱也と雖も海氣清涼を送り朝夕は降露多くして炎威を減せりと云今四ツ時より夜五時迄石炭を載納す土人甚黒色にして魯鈍に見ゆ夕刻英國軍艦の船將士官二三人を從へ船中に来り須臾に歸去す

同二日晴南風今朝六ツ半時ポールランド港を發港門を出て、方位未申同十四日晴今曉右方二三里計にアンノポーサンと云小島を見たり高山あり海面を突出する三千足と云又山頂に湖水ありて景光明媚なりと云同十六日晴東風此二三日前より海面に黄色の泡沫浮めり亞弗利加の大河

より流出する汚穢の物ならんか暮六ツ時月蝕しつゝ出つ右の方四分計を闕く

同十七日晴南風水色濁り汚池の如し今夜中船將曰く石炭乏を以て是よりロアント迄蒸氣を止め帆而已にて航し且飲水甚乏きを以て日本人の飲料をも減すと云暮六時亞弗利加の西岸を二三里に見て風逆なるか故に碇泊す

同廿一日陰東風十七日より亞弗利加の西岸に三四里に沿ふて航す今暮六ツ過ロアント港に碇泊す先日より水に渴する故に衆皆蘇生の思をなし大に喜悅せり

同二十二日晴今朝四方を眺望するに港門廣濶の灣と也東北に面せり港内に礮臺三所あり一は西南の山上に築き一は南方の海面に築き一は東面の山上に築く此地高山なく平地は砂漠にして赤色樹木至て低小にして甚稀也港内の泊船凡廿四五艘英國の軍艦一艘佛蘭西の軍艦二艘米國の

軍艦四艘商船二艘葡萄牙軍艦六艘也此地亦葡萄牙領土人早朝より魚類或は菓物を小舟に乗せ來て是を粥く舟は長く巾狹し大木をくりて制したり土人を見るに顔色墨を塗るか如く猿の如し諸州の黒種人を見ると雖も斯の如くなるものなし扱其亞弗利加とは猿と云なるよし米人の語に此土人は猿の化身也とそ男女も甚見分難し唯婦人は剃髮するを以て僅に辨別するを得る服は男女共に廣き風呂敷の如くなる者を腕に纏ひ其半身を顯せり男子は兩眼の傍に黥をなす今朝五ツ時礮臺より祝炮十二を發す我船又答發す

同廿三日陰今朝より薪水石炭を載納す四ツ時全權小栗公を始め諸君上陸し給ふ今日も又土人魚類、菓物、耶樹實、鷄卵、南京瓜其他種々の食物を持來る其價廉にして魚類最多ク其價も亦我東武に比すれば廉也全權方夕七ツ時歸船あり

同廿四日晴此港内の潮色を見るに甚赤黒色にして惡臭あり土地極めて炎

熱なるが故に潮水自ら焼て斯の如くなるか且亞弗利加とヨウロッパとの咽喉の海を支那人稱して紅海と云亦是に均しく海色赤きを以てならんか昨日より釣を垂るに小鯛鱈其他我國未曾見の魚あり各數十尾を得たり

同廿五日陰爰に一笑事在り土人日毎に數十人船中に來る然るに水夫等戯に云ふ日本人は嗜んで人肉を食すと彼甚恐怖す依て我輩戯に口を開て是を追へは愁聲を發し奔走し遁て繩梯子上に攀ち登る其痴推して知る可し

同廿六日陰今日五ツ時港より陸岸迄凡十五丁計を小船に乗同行十人上陸し市街を彷徨するに家屋は洋風に倣へり或我瓦の如きものを以屋上を掩るもあり市店を開く者は皆葡萄牙本國の人も市街の傍の丘陵に土人の小屋あり至て粗にして四壁は葦の如きものを以て圍ひ耶樹葉を以て屋を掩へり總て平地砂土にして殆步行に困せり土人は途上に露店をハ

ッ魚鳥菓物及諸の物器棉布の類を販くに甚穢拙を極めて譬ふるにもものなし土人は跣足履を用ひず婦人は諸物を首上に戴き持てり爰に一ツの二層樓あり之を見るに屋上に高米國の旗章を建たりナヒヤクラ船の士官に誘れ至るに米國の士官三人是に交代勤番して食料石炭薪水及諸物を備へ本國軍艦の闕ニ乏給すと云我輩に蒸餅菓物を與ふ近傍の丘陵に學館或は獄舎を設け其傍に大家屋有番代の戍兵是に居す又山上の東面に礮臺あり此邊二箇の廢寺其他許多の大廢家あり是を聞くに今より十四五年前は此地大に繁榮をなせりと然るに何故に因てか當今に至り甚衰微せり今本國に於けるも亦大に衰ふと云彷徨の間土人數十人を盡く鐵鎖を以て是を繋きて諸の物器を負擔せしめ小吏一人鞭を上げて是を使令するを見る其故如何と成は堪難に至ては直に其任を棄て去ると也實ニ獸類を使用するに異ならずして其痴愚笑ふ可き也總て亞弗利加國にては諸國の貨幣を接へ用ひ就中葡萄牙の銅錢多し海中に中品の珊瑚

樹を生ず風波猛烈の時は海濱に騰上すと云日本人是を愛翫するを知り上陸すれば土人直に群集し來りて售んとす其價初めは廉なれとも後に至ては甚沸騰せり又一店あり數十本の象牙を店に備へり象虎は亞弗利加に産するを以て世界最一とすと也此地又水に乏しく十四五里の遠きより運輸すと云陸地は炎熱甚しく寒暖計八十餘度に及はんロアントに於る今時夏至なるを以て一歳中の寒度の極度なり然るに斯の如し是を以て其炎熱推して知るへし夕七ツ時過ナヒヤクラ船に歸る

同廿七日陰終日石炭薪水を載納す

同廿八日陰早朝より石炭を載納す此處に來る數日然るに日々天陰々として炎威を避しむ是則自然の天助と云へき乎

同廿九日陰石炭を載納す葡萄牙在番の士官妻女二人を携へ船に來る是を見るに衣服の制は西洋人に異なるなし肉食西洋人より黒く日本人に均し

同晦日陰今夕船を發すとて船中大に混雜せり七ツ時過船より祝炮十二發米國の軍艦より答祝六發彼の船はコモートル名乗れるを以て答發す少し又葡萄牙の礮臺よりも祝炮十二發す船より十二答發す即刻碇を上げ方位東北港門を出て行程一里の頃一船の小舟後より旗章を上て招けり故に蒸氣を止めハツテイ舟小を浮へ直に士官一人水夫十五六人を乗せ還る須臾にして歸り來る其故は一庖人食料の鶏を船に載納せんと欲して上陸し乗るに後れたるものありて送來れる也又蒸氣を發し方位を西北に向け航す

七月朔日陰南風平明亞弗利加の地更に見へす

同二日晴南風八ツ時頃忽然と半鐘を打鳴せり船中の士官統卒水夫等各其得物を持って列す士官令を下して失火消防の演習をなす水夫はワートルポンプを仕かけて水を飛し或はバッテリー舟小を脱し蒸餅及飲料の水を甲板に出す此蒸餅及飲料の水は平常別に非常の時供へあり若火勢盛

んにして防く_レを得されは直にバッテリーに載りて遁れ去ると也嘗て船中火は嚴禁ありて妄用するを許さず日本人新約にてホスボール制の_{マテ}我國摺を買持てるに船に乗るに及んで船將より之を尋ね持てるものには其價を出して盡く是を海中に投せり船動搖なす故に自ら摺合ひて火災を生せん_ヲを恐て也

同三日晴南風此夜始て南極星を見る光輝他星=倍し赫明たり周圍に四星ありて巡還し時々刻々に位置を變せり而して方位は西北の間に當れり予大に疑惑を生して士官に質問せしに此邊は鐵山の引力にて磁石北を指さすして東北の間を指すを以て然りと云

同十一日陰南風今日亞弗利加の南岬喜望峰の南海を廻りて方位辰巳に航す此岬の西面に英領の港あり碇泊し遊覽なさしめん_ヲを船將頻りに勸むれとも全權固辭し玉ふて以不遂此喜望峰の南海は世界上最危険の難洋なるを以て船動搖の甚しき爲に諸器其碎破せん_ヲを恐れて悉く接着

す此南岬=喜望と云高山ありと云陸岸僅に十四五里計隔絶すと雖も陰天故に見るを得不得此喜望の名ハ西洋人亞細亞に航する歸路毎に此峰を見て漸く洋中の危険を免る_レを以て然りとかや

同十二日晴北風昨夜中より風稍順なるを以て蒸氣を止め帆を用ひ航す夜中南極星を見る其位置四ツ時の太陽の高さにあり總て南緯には北緯より大小の星稀也

同十三日晴昨夜より東南風烈しく激浪高く船中に満入り船動搖甚し夜に至烈風雨を掩ひて殊に猛烈なるを以て帆半減にす

同十四日陰北風午後水夫ブべと云鳥を捕ふ此鳥北太平洋海に多く居る處の鳥と同種類にして其最大なるものを捕へ得たり羽色白黒を交へ頗美也兩翼を延れば凡十足あり此ブべの種類大小諸種ありて一定ならず夕刻に至り船動搖甚し

八月十五日晴北風今八ツ時其位東南に當てジャハ島、シモダラ島見ゆ夕七

ツ時半ジャハ東北面にジャハ、ヘノドと云岬と並行す東方にシモタラ島を十里計に見て過く兩島の間にはジャハの屬島ブリンヌアヒラントと云小島あり此ジャハ島は東天竺と古昔唱へし所にして當今和蘭陀の屬國なり東經百〇度五十分北緯六度八分なり氣候は極めて炎熱なり年間我盛夏の如しと云眺望するに高山多く山林森々中に椰樹亭々として抽す又噴火山あり山中雲烟を吐出す此夜九ツ時アンホインと云處に碇泊す支那人此地に來往し店を開く者二人即時に小船に乗り來りて我船に乏しき處の食料を小冊に記して歸る

同十六日晴今曉七ツ半昨夜記し歸る處の鶏豚牛肉野菜類を持來る土人は黒色サンドイス人に彷彿たり顔色は亞細亞同種類にして丈卑し曉六ツ時碇を上げ方位を東南に向け航すシモタラ、ジャハ二島の距離廣狹一定ならずと雖も近きは十三四里ならん此邊許多の小島あり碇泊するか如し全島悉く林叢甚繁茂せり爰に奇なるは海中の洲に突然として數株の

木あり高さ四間餘に及ぶ樹葉青々茂密せり距離半町計なるを以て熟見を得ず暮六ツ時バタヒヤの港に未至七十里にして碇泊す此邊の海至て淺く暗礁を恐るゝを以なり夜中雷鳴降雨

同十七日晴朝六ツ時碇を上げ方位南に向け航す四ツ時バタヒヤの港に碇泊す此港東北に面し半月形をなし廣濶の灣となる港内の泊船百餘艘なり其帆檣には各國の旗章相共に林立す就中阿蘭陀の旗章を上げたる多くして四十餘艘ありナヒヤクラ船より祝炮七十發海路一里を隔て陸岸の礮臺より答十一發す即時阿蘭陀の軍艦よりロイテナント名一人バツテラに乗り來る水夫は皆土人也而して服は西洋人と異なるなく黄色のコロネク以て帶となし齒を黒く染め長き髪毛を頭上に曲けて櫛を挿し其上に棉布を以て掩へり其從卒一人あり手に火繩を携ふ其何の故なるを辨せず須臾にして歸り去る此地甚炎熱なり

同十八日晴今日バタヒヤ港に滯泊す五ツ時御役人二人通詞一人上陸し夕

刻歸船ありバタビヤの新聞詞を得て歸られしに其文に曰く日本の横濱貿易益盛新に判金を製造すと云清國と英佛戰爭清國利を失ひ大に敗績すとなり

同十九日晴今日朝和蘭本國より在番の士官十四五人來る

同廿日晴今日五ツ時全權小栗公を始め御役人七八人上陸有り和蘭國より

此地に在番のゼチラール名官より招待せしを以て其居館に行き玉ふ酒珍味を盡し饗應せしと云家室甚壯麗なりと暮六ツ時歸船し玉ふ

同廿一日晴五ツ時碇を上げ西方一里計にして小島に至り碇を下し石炭を載納すと此島嶼は鼎足の如く三ツニ別れり而て一ハ海軍所を設け一は距離二丁計に有り此岸より二十間計に碇泊す又一ツは其北に當れり此二島に礮臺あり其形飯櫃を伏せたる如く煉瓦石を以て製し周圍に小銃大煩の砲門を二段に設く上段に大煩八門を備へ下段に數十箇の小銃を備ふ經凡八間高三丈五六尺計にして一丈計の處に門戸あり錠を設け昇

降の階子を架すナヒヤクラ船の水夫小刀を以て竊に其錠を開き戍兵のあらざるを以て我輩五六人此砲臺中に入るを得熟見を得たり未だ礮を盡く備に至らず中央に一箇の井あり雨水を砂潜して彼の井中に入れしむか如くなせり午後石炭載納す

同廿二日晴早朝より石炭を載納す此地の海軍所に魯西亞の軍艦一艘滯泊せり此船喜望峰の海洋に於て風波の爲に數箇所破損し此地に來て修覆なすと也扱此船にカラフト砲臺に備ふる所の大煩八十斤十八挺其以下數十挺を運輸すと云彼國英佛と四五年前の大戦の後表には和親をなすと雖も内意互に確執を懷けりと云而英佛ハ魯西亞領のカラフトカムサツカの地を略せんことを謀ると故に礮臺を嚴にして以て英佛に備ふならん英佛のカムサツカを略せんと謀れるは魯西亞の蠶食を以て事と爲し稍々支那に及はんとするを恐るゝか爲ならん

同廿三日晴早朝より石炭を載納す其品至て粗惡なりと云暮後大に雷鳴し

て覆盆の大雨降來れり我輩新約を出しより以來沐浴するを得ざるを以て天助なり失ふへからすと云て裸身になりて沐浴に代へて垢穢を清め且衣服を洗濯せり

同廿四日晴早朝より石炭を載納す此地に於て納る處の石炭八百トンの秤量名と云一トンの價二十五トルラールと也夜中雷鳴驟雨

同廿五日晴今四ツ時碇を上げバタヒヤ港に至る午時陸岸迄バッテリーに乗り十輩相共に上陸す此地陸岸に長く石垣を築出し溝を掘り小舟の通路を開く凡そ十町餘其海路の小舟碇泊す就中支那の舟船半を過く左右の岸に沿て土人支那人の粗屋櫛比せり車を貸す家に至り二馬車四乗を借り相連ねて走行す此地の産馬至て小にして我土州馬の如し和蘭製のコロシヒヤルの十二寸トイム六斤炮の車臺ハ此馬に駕するを以て成ん乎行程一里其行路の左右に支那人の家屋有八ツ時旅館に着し須叟休憩す此館ハ二層にして壯麗なり土地炎熱なるを以て家屋の周圍に廣く樹木を植

へ日光を遮り炎暑を避く異草奇樹多く開花爛漫として人目を喜はせり就中椰樹多し諸州の椰樹子實を見ると云とも未此地の産より大なるを見す旅館の四方六七丁計の處の商店七八戸に過り又一書肆に至り其價を問に米國に比すれば甚高直なり同行求る所の書を乞と雖も貯藏せず別ニ一二の書を買得たり七ツ過旅館に歸り又休憩し酒菓を喫す日既に西に傾き船に歸らんと欲するに某君の從者某生未至らす止むを得ず此館にナヒヤクラ船の士官七八人來れるを以て彼生の事を托し同行殘らす車行し海岸に至れば已初昏を過たり又彼生を暫く待と云とも至らざるを以て小舟を借り初更船に歸る瞬間にして降雨某生は五ツ半時船に歸來りしに大に叱を受く某生の遲滯せしは支那人と筆問をなせしを以ての故也とそ此地諸州の人民來り住す其内支那人最多し之に次くもの蘭人ならん此地に本邦より常に五拔隊隊名凡て千人餘を以て警衛に備へ又軍艦數艘を備へて警衛す諸州來住人土人を總計するに十八萬口と云

同廿六日晴今日ジャハの港に泊す和蘭の風説書を見るに和蘭より日本に二艘の商船を航せは益を得る事凡百萬トルと云へり此地に我國の醤油あり一の徳利に四合計り入れ蘭字にてイヤバンと記せり其價彼一トルの貨幣の百分の四十五に當れり我齒磨一袋ドルの四分の一也是を以て我國の貨幣の尊く物價賤しきを知るへし彼の半トルを以鶏卵二十二に代ゆ前日より日々食料薪水を載納す糧米既に盡きたる故に當地にて支那米を載納するに其米粗悪黒色を帯ひ臭氣強く我仙臺の古米稍々是に勝れりと云へし明日は此港を發船と云夕陽英蘭の男女十六七人來りて躍をなし薄暮歸去す

同廿八日晴東風今日船を發するを以て大に混雜し且蘭人數人別を告來る夕七ツ時碇を上げ方位北に向け航す此海小島多く碁布す夜九ツ時碇を下し泊す其故は此邊暗礁多きを恐る爲と云

同廿九日陰東風朝六ツ時船を發す海中に大小島嶼亂點シ且許多の暗礁あり

るを以て水夫數人を帆檣或帆桁に登らしむ左方距間十四丁計に長さ二十間餘もあらんと思船暗礁に懸れり是を尋るに米國の商船にして今を去る十四箇月前此難に罹れりと云へり怖るへきなり又此海中に海蛇多く浮めり長サ二尺より三尺に及ぶ惣身黄色にして黒き星あり魚類は鮫飛魚甚多し

九月朔日晴西風海面靜穩亂點の鳴嶼稍々減せり航舟三艘を見たり夕七ツ過雨降る燕あり帆檣に來て休す今夜中赤道直下を北に過く

同九日晴西風七ツ時より西北に當て香港ホンコンに屬する小島許多航船數十艘漁舟數十艘を見る漁舟は二艘ツ、相連れり帆檣は二本にしてアンペラを以て帆となせり夜六ツ半時香港口に未至五六里にして碇泊す即刻小船二艘來る是を見るに支那人なり船將と對話して歸り去る蓋香港に在番のミニストルに到着の事を報告するならん

同十日晴朝六ツ時碇を上げ方位西に向て航し港門に至る港門は東南に面

し港口の距離は僅に五六丁右方は廣東に陸續し左右は則香港の嶋也港口より港に至る凡三里計兩岸山嶽峨々高峻にして半腹雲を帯ひ絶景甚目を喜はしむ五ツ時港に着し碇泊す港内船舶の帆檣は森林に均し即時に祝炮十一發す砲臺より同しく答發十一此香港の島は清國英國とアヘン一件に因て争戦し終に和親し此島を割て英國に與へ軍務の費を購ふ夫よりして英國是を領し港を開き當今に至て甚繁榮し滯泊船を算するに凡二百四五十艘に及ふへし就中英國の旗章を立たる船多く半を過く三段に大礮を備へたるリ大船三名三艘其他の軍艦は擧て數へ難し

同十一日晴石炭薪水を載納す四ツ時上陸四五輩ツ、相共に街市を彷徨す扱此市街は山陵に沿て人家櫛比し洋人家屋は十分ノ二して煉瓦石製也又諸國の商館あり各其國の旗章を高く建つ海軍製造所又學校あり生徒は三十人計にして支那人も其中にありて學へり教師に漢學に長せし者來住すれとも當今は英國に歸りしとなり支那人の居家は十分の八にし

て造營最異なり多く木材を用ひ板を以て四壁となす瓦を以て屋を掩て甚粗小也階悉く二層にして店の設け略我邦に彷彿たり土上の路店に食物を販き又豆腐油揚温飩の類或は賣卜の類あり海岸に米國の商館あり晡前同行二十人計相會集するを待バッテリー舟小の迎へるに乗歸船す

同十二日晴早朝より石炭を船に載納す爰に清國と英佛は五月より争戦し八月に至て大に收績し終に北京落城し咸豐帝遁れて達坦に奔ると云事を聞けり

同十三日晴石炭を船に載納す此港に米國の旗を立てたる長さ十間計の船二艘あり其船中に店を開きて諸の物器食物等をひさけり且小船にて日々陸岸より其賣物を積入れたり扱此二艘の船は賣物の運上を取ならん

同十四日晴今日も早朝より石炭薪水食料を載納す米英人日々數十人來る此港は僅十三四年前英國よりの開創にて地を與へて各國の商館を立しめ貿易を開く故に日月に來住するもの多く稍や繁盛し當今に至ては戸

數二千人人口二萬五千に至ると云此港は颶風の患ひ更になく最佳港と云へしとかや

同十五日晴香港の港に滯泊す今四ツ時長八間計の印度の船ナヒヤクラ船より二丁計隔て、顛覆せり近傍の船を各ハツテイラを出して是を救ふナヒヤクラ船よりも同じく救船を出す然るに覆舟は湖水に従ひ流れて稍々港門に出んとするを辛うしてナヒヤクラ船に漕付け而て船より繩を下し其伏たるを引起し三時計にして又其船に乗り歸るを待たり其乗組水夫十四五人面色悉く黒けれども亞弗利加人に比すれば稍々白く髪の毛は長く是を頭上に曲けて棉布を以て是を掩ふ人物は眼中するどく其所爲も又魯鈍ならずして支那人に異なるなし英領の者と見へたり

同十六日晴船の表に水夫の厠あり此處より船中の雜物を棄つるを土人終日二間計の小船に乗り來て綱を以て是を受け蒸餅の如きは是を食料となし野菜の如きは鶏豚を養ふに供すと云我國の乞食に均しき者ならん

多くは婦人也

同十七日晴香港に泊す藝州産の龜五郎と云者十年前攝州灘松屋某なるもの、持船千五百石積乗組十七人の船に水夫となり江戸表回米を載せ攝州を出帆し紀州熊野沖にて北風強く吹出し衆皆死力を盡し防禦に苦めとも風波益激怒して所々船具を破碎し且帆檣を折られ遂に術盡きて北太平洋に漂泊する、凡百餘日其間の苦心艱難を聞に實に隣むに堪たり遙に洋船を見て衆大に喜ひ甲板上に出各皆箆筵の類を上げて是を招き呼ふに其船忽ち方位を替へ近ツき來る其船に上り移らしめたり衆皆姑く萬死を出てサンフラ此舟北亞墨利加合衆國サフランシユスコの商船にして亞然ンシユスコに到着せり細亞州より歸航せるを以て漂人も救れて同行せりと云然るに同行其船中にて死するもの四人餘十三人は無恙着するを得て各意に任して水夫或は雇人となり離散して口を糊せり此龜五郎は頻に故土を思ふの情切なりしか此行の、を聞て大に喜ひサフランシユスコ旅館に至り漂流の顛末を訴へ從ひ歸らん事を苦請せんと欲し其門外に來る

事兩回なれとも半は本邦の嚴禁を怖れて終に果さず此香港に雇人と成り來れり然るに又我使節の此港に來り給ふを以て切情に不堪遂に米人を紹介となし苦情を述へ許容を受けて船に乗込めり此もの克英言をなすといへとも爲人甚魯鈍なり其餘十二人今に至つては假成の産業をなせるものもありと云今日終日船に食料を載納し大に混雜す

同十八日四ツ時祝砲十一發炮臺よりも答祝十一發す碇を上げ船を發し港門を出て方位東南の間に向つて航す

同十九日晴東風海面靜也

同廿日晴東風朝五ツ時より東北に當つて大灣國を見る四ツ時半彼島の西南の岬と並行す至て高山あり一萬尺ありと云又平坦の地も見へたり大灣の南海四五里に沿ふて航す望遠鏡を以て見るに南面には人物見へす唯草木青々と繁茂せり終日此島と並航す日暮に及んで彼島東岸凡三里計離れて東面に人煙立つを見たり船航の方位線に當りサバコと云島十

里計に見ゆ大灣島は清國に屬すと東西四十里南北百里計と云

同廿三日晴今曉より琉球島東北に當つて見ゆ追次に彼島の南海二里に沿ふて航す此島山多しと云とも高山なく且樹木少し午時に至て三島に別れて見ゆ此島の東岸を去る凡十二三里にして日西に沒す

同廿四日陰今朝五ツ時西北に當つて小島見ゆ鬼界ヶ島也風烈波浪激し船甚動搖す米人曰日本海は尤危險の海にして三月より七月迄は海面稍々靜也と云へり

同廿六日晴北風船動搖稍々輕し晡後西北に當て勢州淺熊ヶ嶽斜日に映して彷彿雲歟山歟と見ゆ爰に或る米人の曰日本に於ける年々許多の船を破碎し夥敷人民溺死すと聞けり實に傷むべきの甚しきにあらずや且米穀貨幣財物を無益に亡失する事許多ならずや宜く船の製を改革すへし然し一時に變革なさん事難ければ爰に小補あり爰に先帆檣を改むへし船の大小に依て或は二檣或三檣とし帆は二枚三枚或は四枚と其船に應

し用ひ而して帆檣を二箇三箇に繼ぐへし是は節或は曲り目等有る長材を用ゆる事なく殊に大風の時は繼たる檣を下ろして最風を避しむへく又帆は一枚を用ゆれば前の二橋の帆は後の帆に遮られ風に逢ふ片は屢屢破損すへし故に數枚の爲に利あり帆檣の如きは船具の最緊要たるを以て其費多しといへとも改めすんはあるへからず船底にまざりかわらるを付又梶の製を替ゆへし日本製のことく幅廣き時は波浪を受けは忽ち破碎すへし且艫の製甚惡し後面より波浪を受けハ必ず碎けん此四ツに心を用ひて製せは必小補たらんと云り

愚案するに此に加るに測量器を備へ廻船中烈風に逢ふ時は風に隨つて漂航し風の替るを待て方位を測量し歸る可し我國の船長は我地を離るゝ事を恐怖するか故に却て夫か爲に船を損するも甚しからん乎商船と云とも千石以上の船舶には必ず一人の測量人なくんは有へからず此製を立ては命を存し且國の貨財を沒失するも少なからんか

同廿七日晴朝五ツ時卯の方に當て三宅島を見る追次に豆州の小島七島に分れ碁布し見ゆ富士嶽は雲掩ひ見るを得す方位を東北の間に向け大島を右に見て地方三四里ニ浴ふて航し夜六半時三浦の岬に碇泊す

同廿八日晴朝六ツ半時碇を上げ五半時横濱に着し碇を下さす須叟漂船す即時に米英佛プロヒセンの士官歸着す祝し來る須之して我邦の軍艦より諸君來れり諸用辨船を發し品川沖に四ツ半時過着し碇を下す晝後御用船數艘來り其船に乗り八ツ時築地海軍所に着す考れば凡十ヶ月誠に夢の覺たる如く始て我安泰を知れり初東に向て航し地球を一周して西方に歸れり此地球の巡還と相逆航するを以一周し歸る時は一日の差違を生す今日は我廿七日也是を以知るへし

一ポ―ハタン蒸氣ラットにて四十五間巾七間大砲十二挺一層備七百馬力
一ロノツク蒸氣スクルーフマシ子にて五十間巾七間半大砲六十挺二層備六百馬力

一ナヒヤクラ蒸氣スクルーファミシ子にて五十間巾八間大砲十五挺一層備
千馬力

粗漏淺見憶記を友生輩の切なる需めに應じて未文辭を修むるに至らす
妄に書記せり且一々書記し得ざるの類又は本文中我里法を以て記或西
洋里法を以する類拙の拙なるものにして實に使ムルヲシテマ我憎吾のみならず不知
て作之の誹謗固より所不免也大人君子幸恕之

杵築藩 佐藤秀長謹識

昭和三年十月二十日印刷
昭和三年十月廿五日發行

遣外使節日記纂輯第一
非賣品

不許
複製

編輯者 東京府豊多摩郡杉並町大字高圓寺
四百十八番地 大塚武松
發行者 東京市四谷區新堀江町三番地
日本史籍協會代表者 早川純三郎
印刷者 東京市京橋區新湊町五丁目一番地
高橋赤次郎
發行所 東京市四谷區新堀江町三番地
日本史籍協會
電話四谷三二八七番
振替東京三九四五番

IT 7G-80



終